

大学院

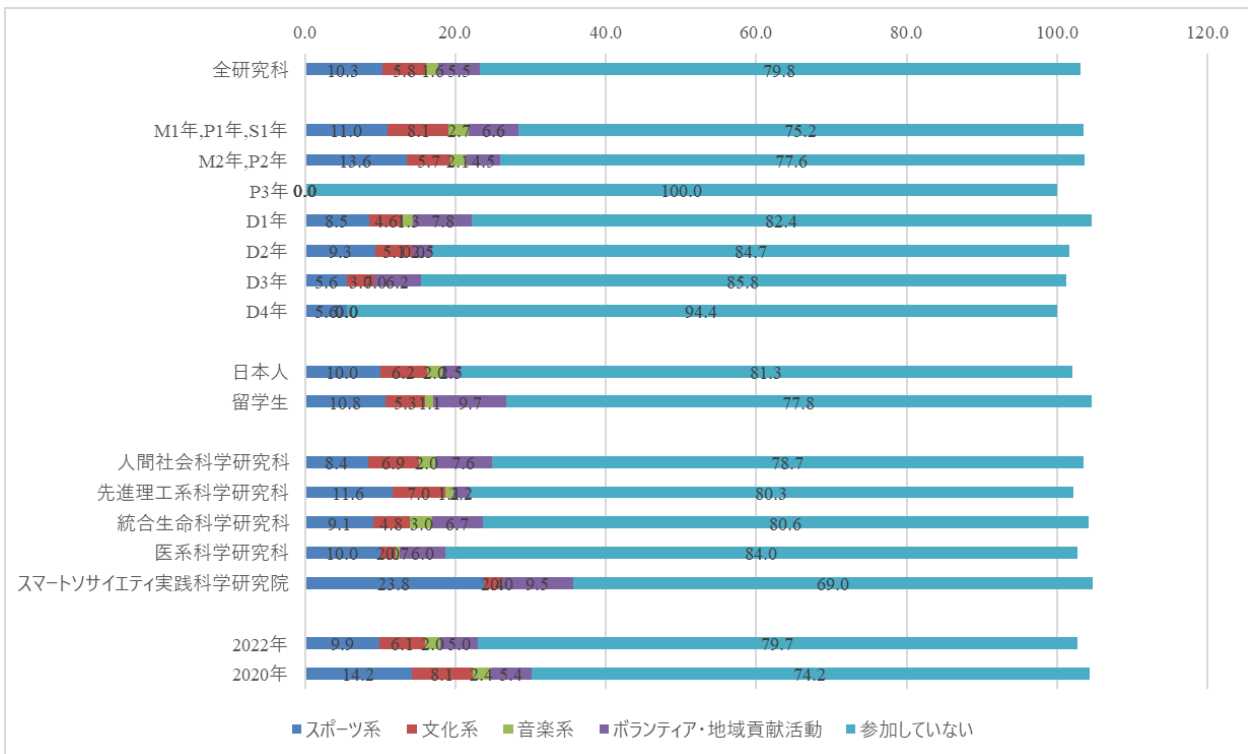
(※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります)

1 課外活動の参加状況

設問1 学内のクラブやサークル活動に参加していますか。(複数回答可)

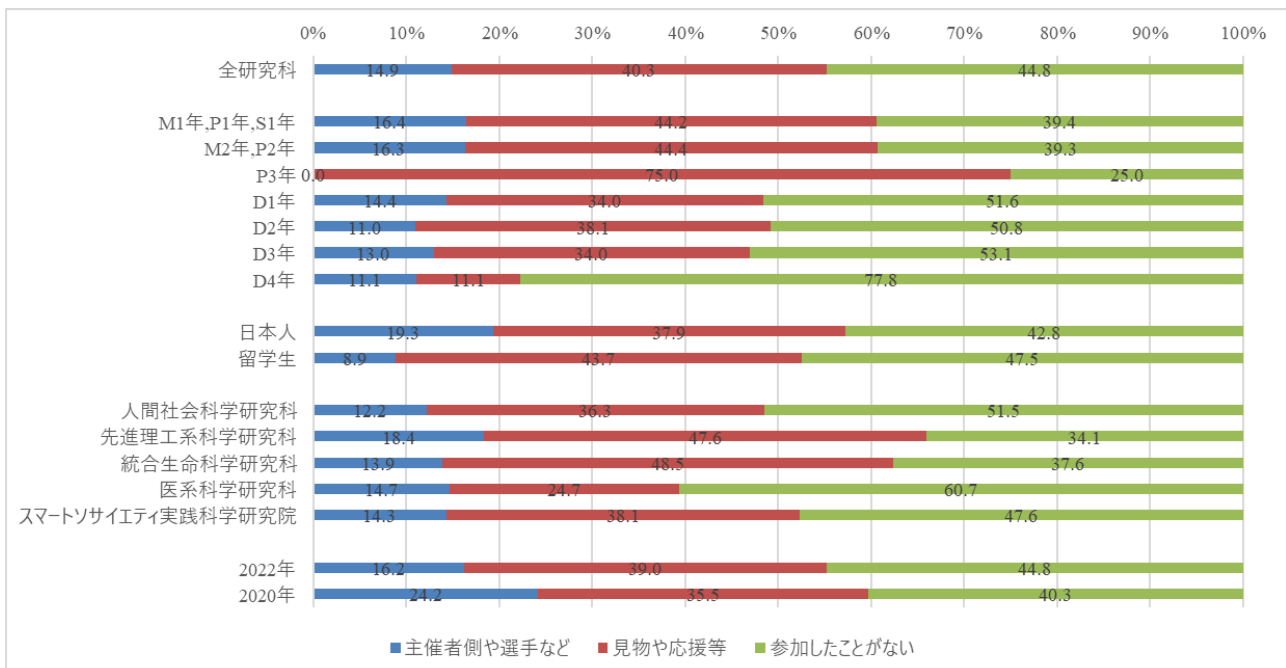
大学院生は、学部学生とは異なり、サークル活動等への参加割合は低く、延べで2割を超える程度にとどまっている。2022年度と比べても、あまり差がない。新型コロナウイルスの影響は少ないように思われる。活動の種類としては、学部生と比べてボランティア・地域貢献活動の割合が相対的に高くなっている(スポーツ系・文化系のサークル活動への参加割合が大きく下がっていることによる)。

また、学年が上がるほど、参加率が低下する傾向が認められる。学年の違いと比べれば、研究科の違いによる差は小さい。そのような中で、スマートソサイエティ実践科学研究院は、他の研究科とは異なる傾向を示すが、回答者数が少なく、2年目の学生までしかいないので、単純に比較できない。



設問2 大学祭, ゆかたまつり, フェニックスリレーマラソン, 霞祭等の大学の行事に参加したことがありますか。

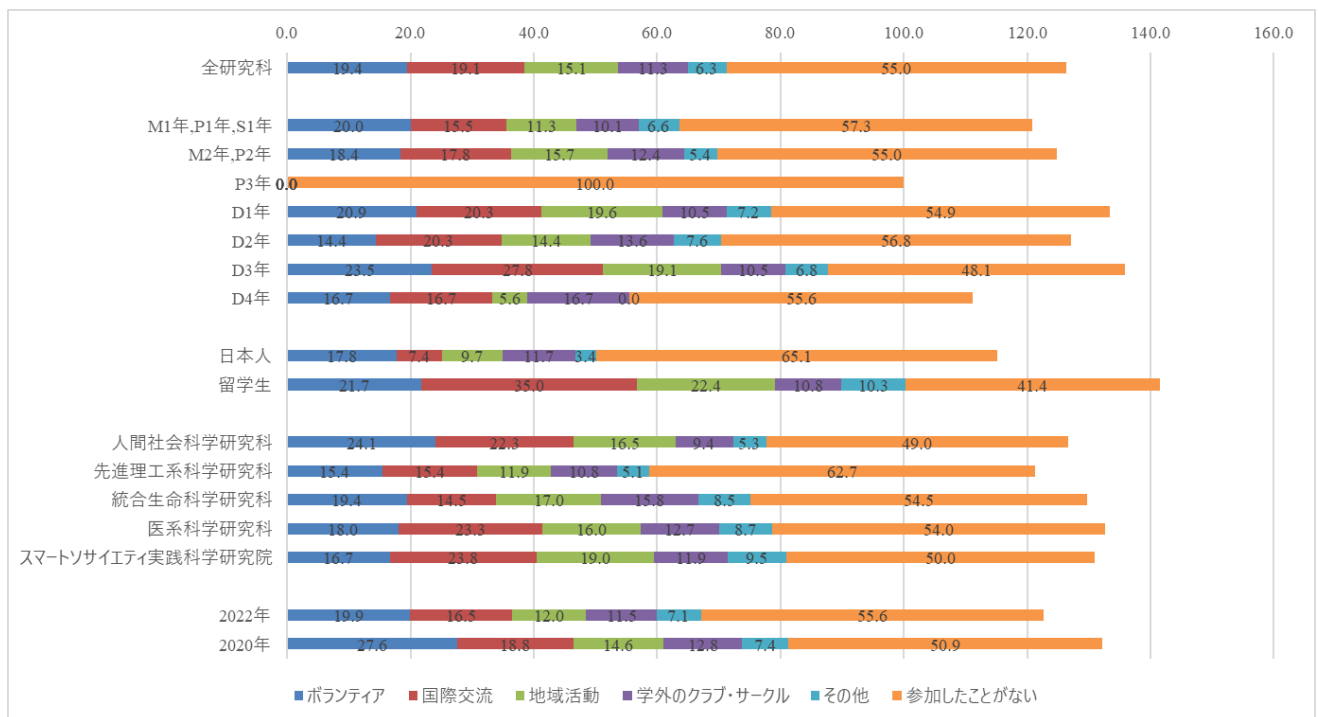
学部生と比べて、大学院生が主催者側や選手などで参加する割合は低く、しかも2020年度、2022年度から小さな参加率になっている。見物や応援等での参加割合は、学部でも大学院でもあまり変わらず、4割程度となっている。学年や研究科による差は、P3を例外とすれば、あまりない。



設問3 学外のボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。(複数回答可)

学部と比べて、大学院では社会活動への参加の割合が高くなっており、半分近くの学生がなんらかの活動に参加している(学部では4割程度)。そして、学部と同様に学年による差はあまりなく(P3生は例外)、学年が上がるほど参加割合が高まる傾向も認められる。

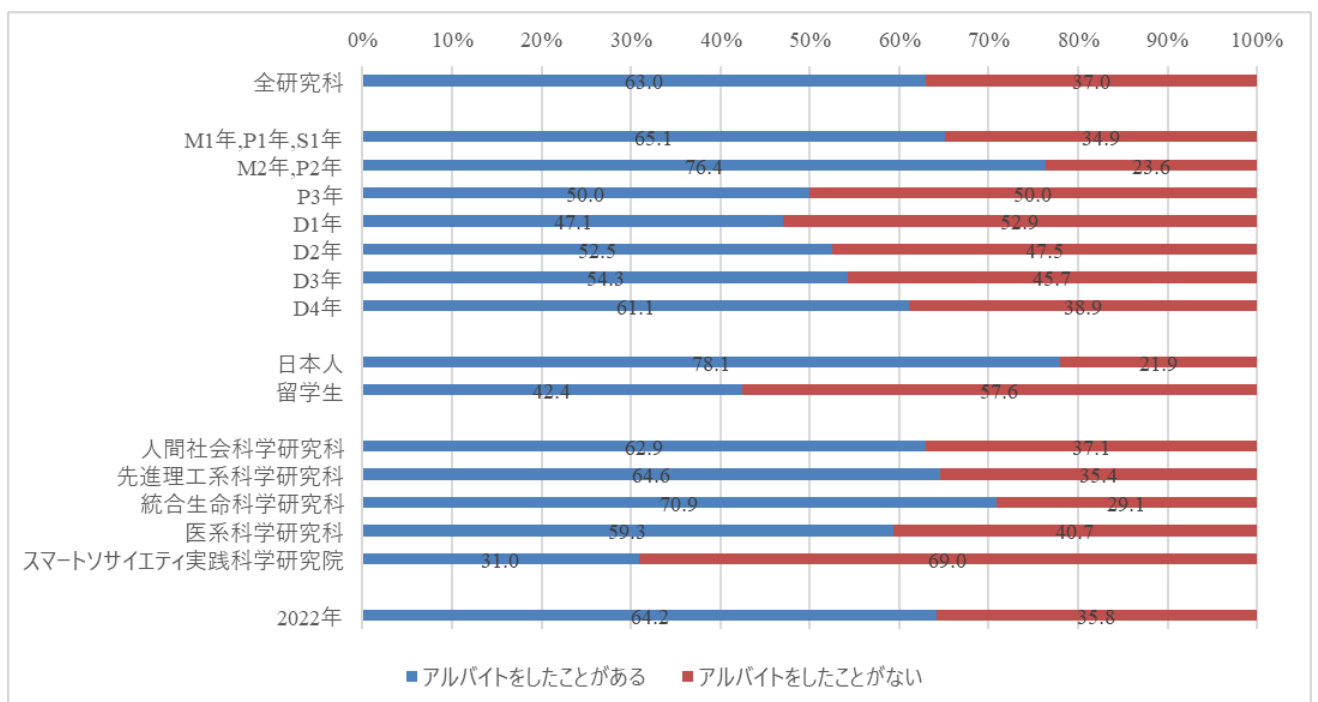
研究科による違いは、先端理工系科学研究科の割合が相対的に低いほか、他の研究科での差は小さい。日本人院生と留学生との差は、国際交流の割合が留学生でとても高くなるのは当然としても、地域活動やボランティア活動でも留学生の参加割合が高くなっている。留学生の方が活動に興味を持ちやすいといえるかもしれない。



2 アルバイトの状況

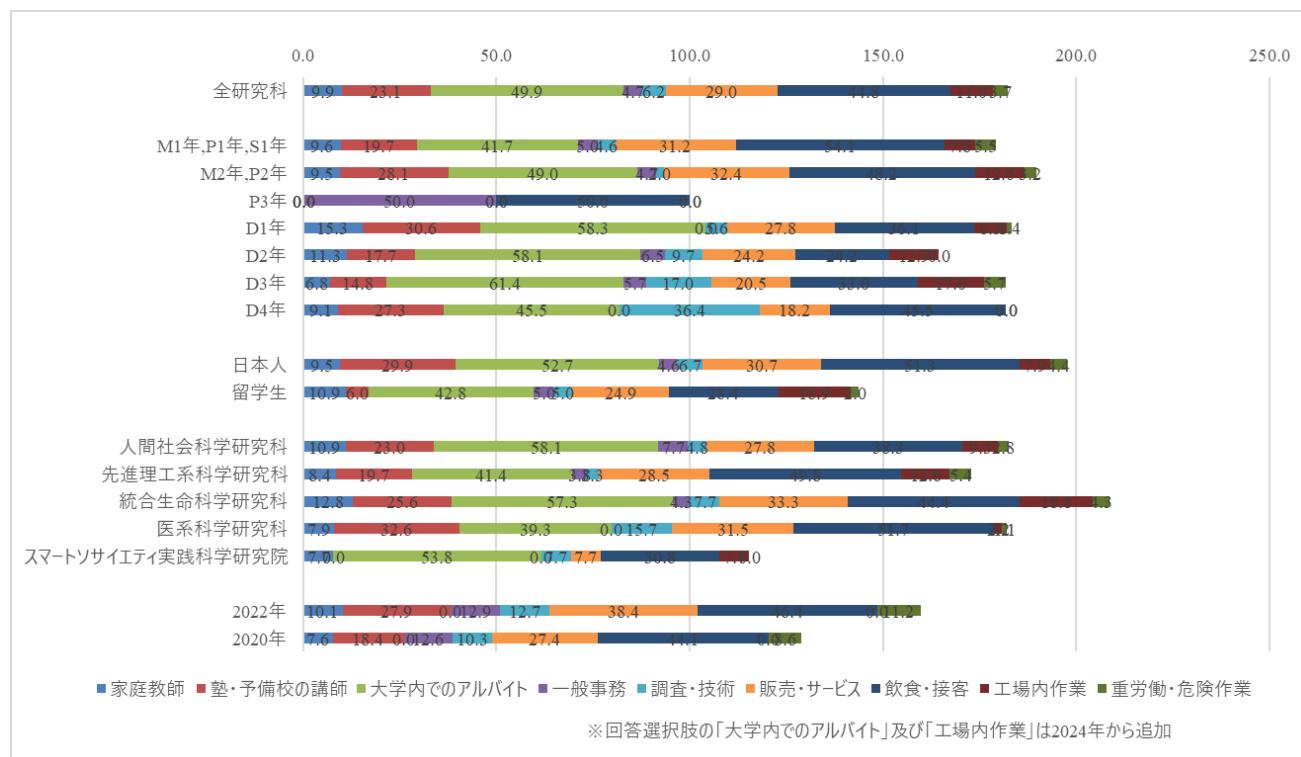
設問4 入学後何らかのアルバイトをしたことがありますか。

大学院生でアルバイトをしたことがあるものは約6割で、2022年度の結果とほぼ変わらない。ほぼ9割が経験している学部学生と比べると、経験したことのある割合は低い。日本人学生では8割がアルバイトをしているのに対して、留学生では4割にとどまる。また、スマートソサイエティ実践科学研究院のアルバイト経験ありの割合は他の研究科と比べて目立って低いが、その他の研究科の差はあまりない。



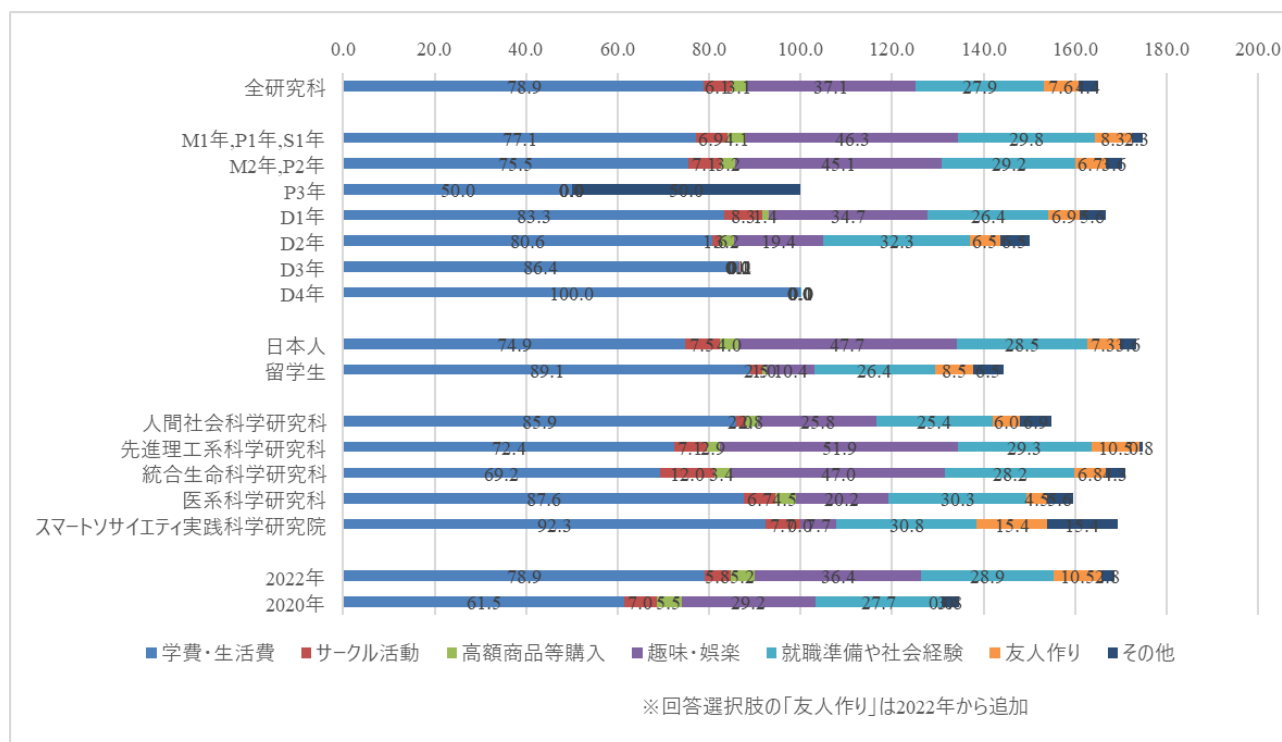
設問5 したことがある（又は現在している）アルバイトはどれですか。（複数回答可）

経験したことのあるアルバイトで最も多いのが大学内でのアルバイトで、大学院生になると TA や研究室での雇用など学内での就労機会が増えることが反映していると考えられる。学部学生と比べると、飲食・接客や販売・サービスの割合が下がる。2020 年度、2022 年度と比べると、回を増すごとにアルバイトの経験数が増えていることがわかる。ただし、前問で示されるように、アルバイトを経験したことのあるものの割合はほぼ変わらないので、アルバイトをしている院生は複数のアルバイトを行うようになったと読み取れる。



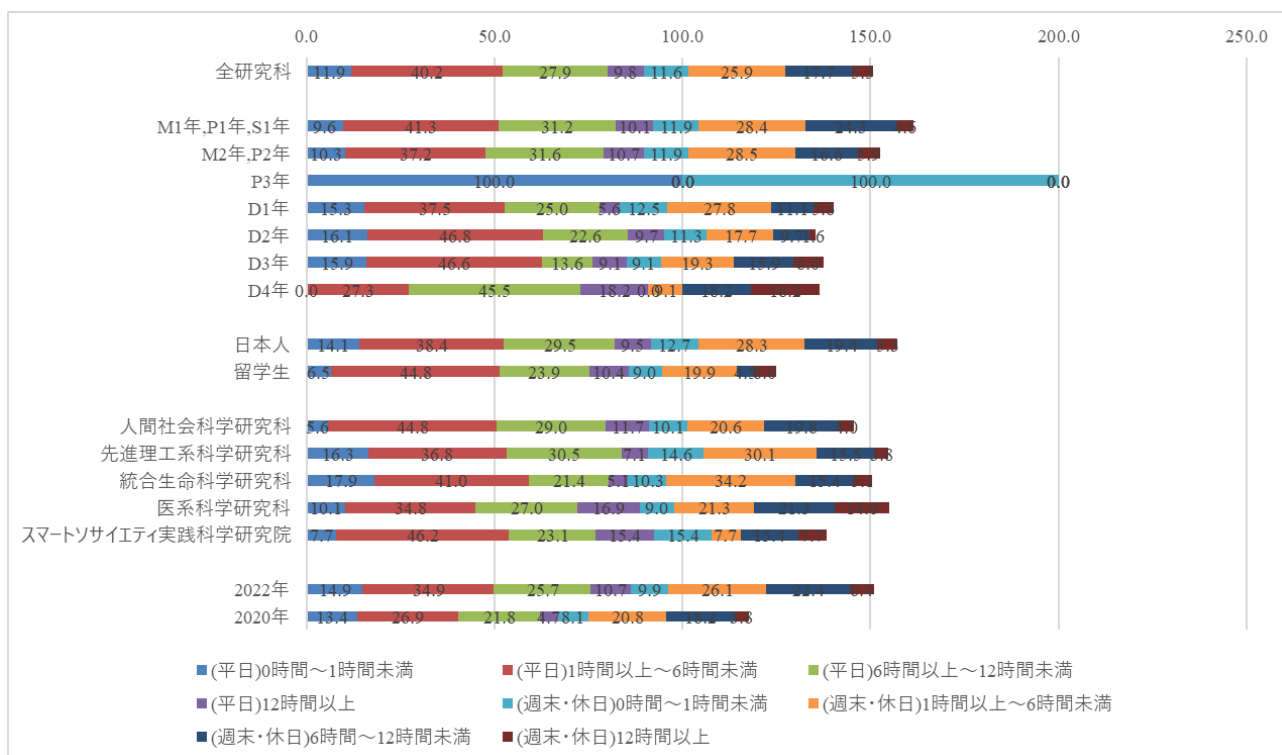
設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。（複数回答可）

大学院生がアルバイトをする目的は、学費・生活費のためが約 8 割を占め、切実な状況がうかがわれる。趣味・娯楽のためがそれに次ぐが、学部生と比べると大きく減り、就職準備や社会経験の割合が約 3 割となる。D3、D4 生ではアルバイト目的のほとんどが学費・生活費のためとなっている。



設問7 1週間あたりアルバイトを何時間していますか。「平日」及び「週末・休日」それぞれの中から1つずつ選択してください。

アルバイトに費やしている時間は、平日に1～6時間が最も多く、次いで6～12時間であるが、学部学生と比べると勤務時間は短い。ただし、D4の院生は、6～12時間の方が多くなる。休日の勤務時間は、D学生で学年が上がると増える傾向が認められる。

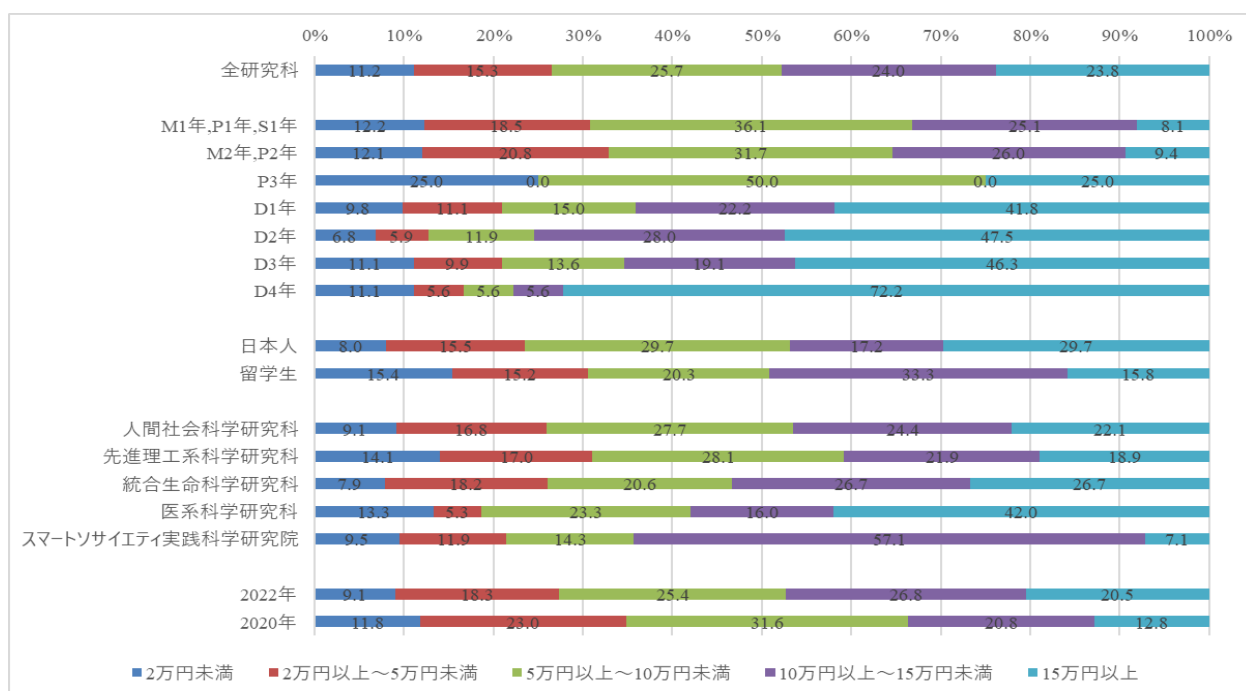


3 経済状況

設問8 1か月の総収入（仕送りやアルバイト等、すべての収入を含める）はいくらですか。

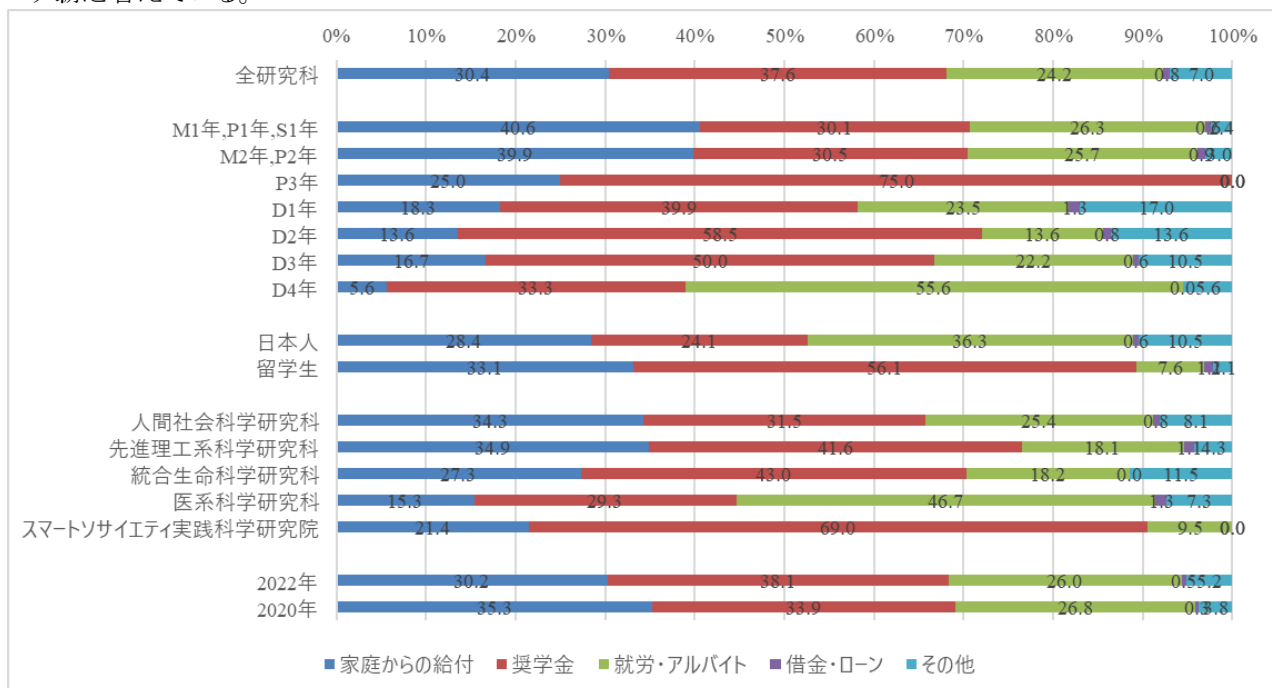
全研究科で見ると、総収入は、5～10万円、10～15万円、15万円以上がそれぞれ25%程度となっている。2020年度、2022年度と比べると、若干ずつではあるが増えている。学年別にみると、後期院生の総収入は、修士課程院生と比べて多い。研究科別にみると、医科学研究科、統合生命研究科、スマートサイエンス実践科学部で総収入が多く、先端理工科学研究科と人間社会科学部研究科の総収入が少ない傾向が認められる。

なお、この設問への回答では「総収入」についての認識が回答者によって異なる可能性が否定できず、さらに自宅生と下宿生を分けていないので注意が必要である。



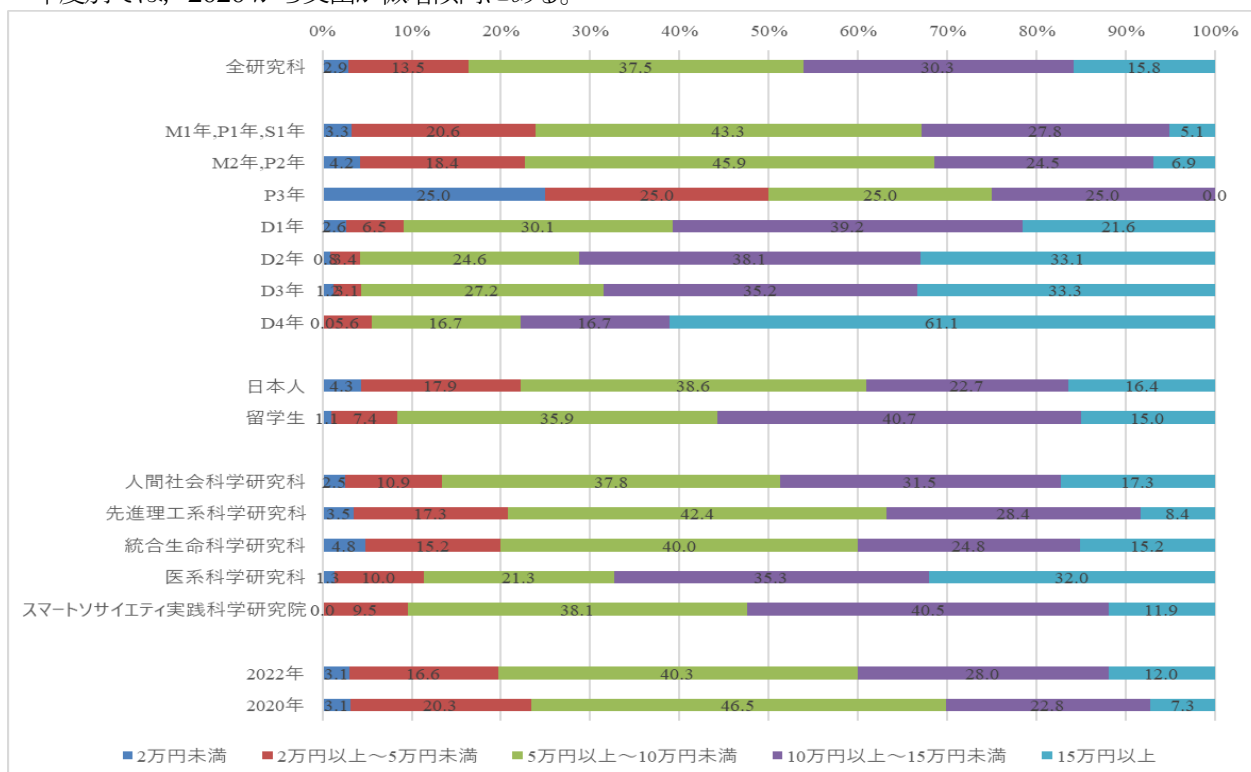
設問9 1か月の収入のうち1番多い収入は、次のどれですか。

大学院生の収入は、学部生と異なり、奨学金の割合が最も高い。全研究科平均で約40%の学生が奨学金の収入が多いと答えている。学年別にみると、修士課程の学生では家庭からの給付が4割程度と最も多いが、後期課程になると家庭からの給付の割合が下がり、奨学金が3～5割と大きく増加する。逆に、就労・アルバイトの割合は、D4生を除いて大きく低下する。D4生では就労・アルバイトの割合が最も高くなる。前問までで、D4生は勤務時間が長く、総収入も多いことがわかるので、結果として1番多い収入源が、就労・アルバイトとなるのは当然ともいえる。特に医系科学研究科では、回答者の半分近くが、就労・アルバイトを最も多い収入源と答えている。



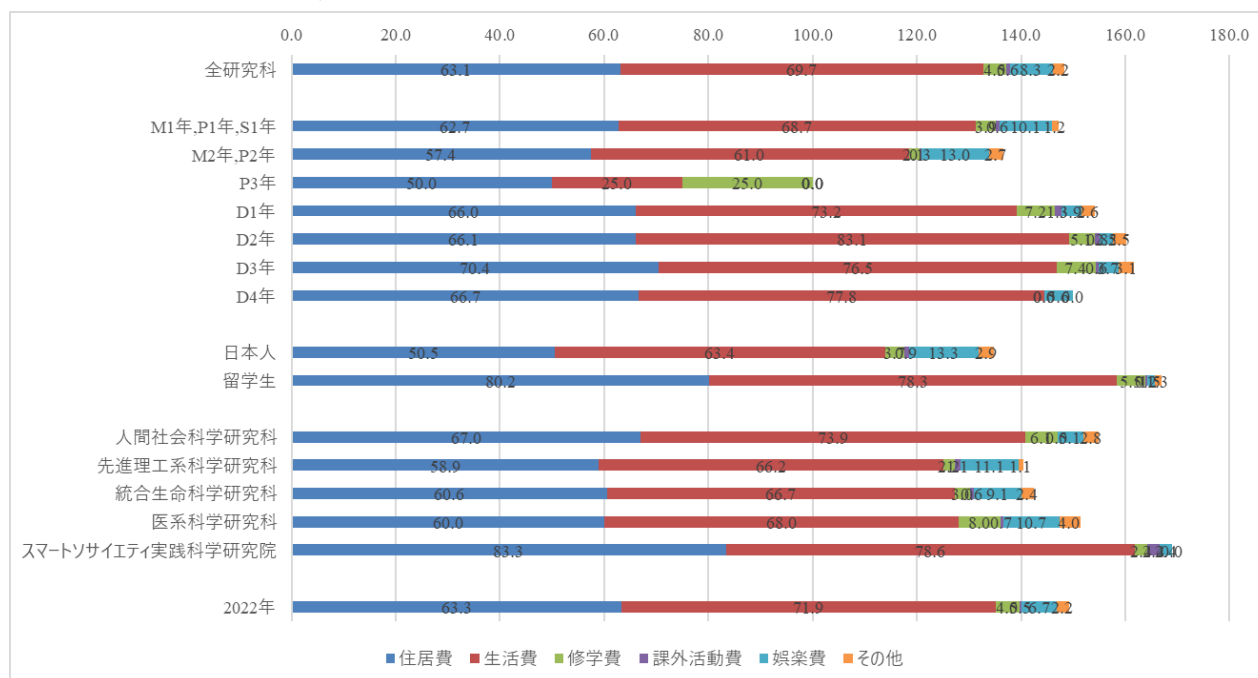
設問10 1か月の支出はいくらですか。

全体の傾向として、5～10万の支出が最も多く37.5%、次いで10～15万の支出が30.3%と続く。学年別では、M・PとDとで支出の構造が大きく異なる。M・Pは4割強が5～10万の支出であるのに対し、Dは10～15万の支出が最も多く、35～39%程度となっている。ただしPの3年目は2～5万の支出である学生が5割に達し、支出が抑制されている。日本人と留学生については、留学生は10～15万の支出が4割を超えており（日本人学生は2割）、支出が全体的に日本人よりも多いことが推察される。研究科別で見ると医学系学生は15万円以上の支出が3割を超えており（他研究科は8～15%）、他の研究科に比して高額支出となっている。年度別では、2020年から支出が微増傾向にある。



設問 11 1か月の支出のうち、多く必要とする経費は何ですか?ただし、授業料は含みません。(複数回答可)

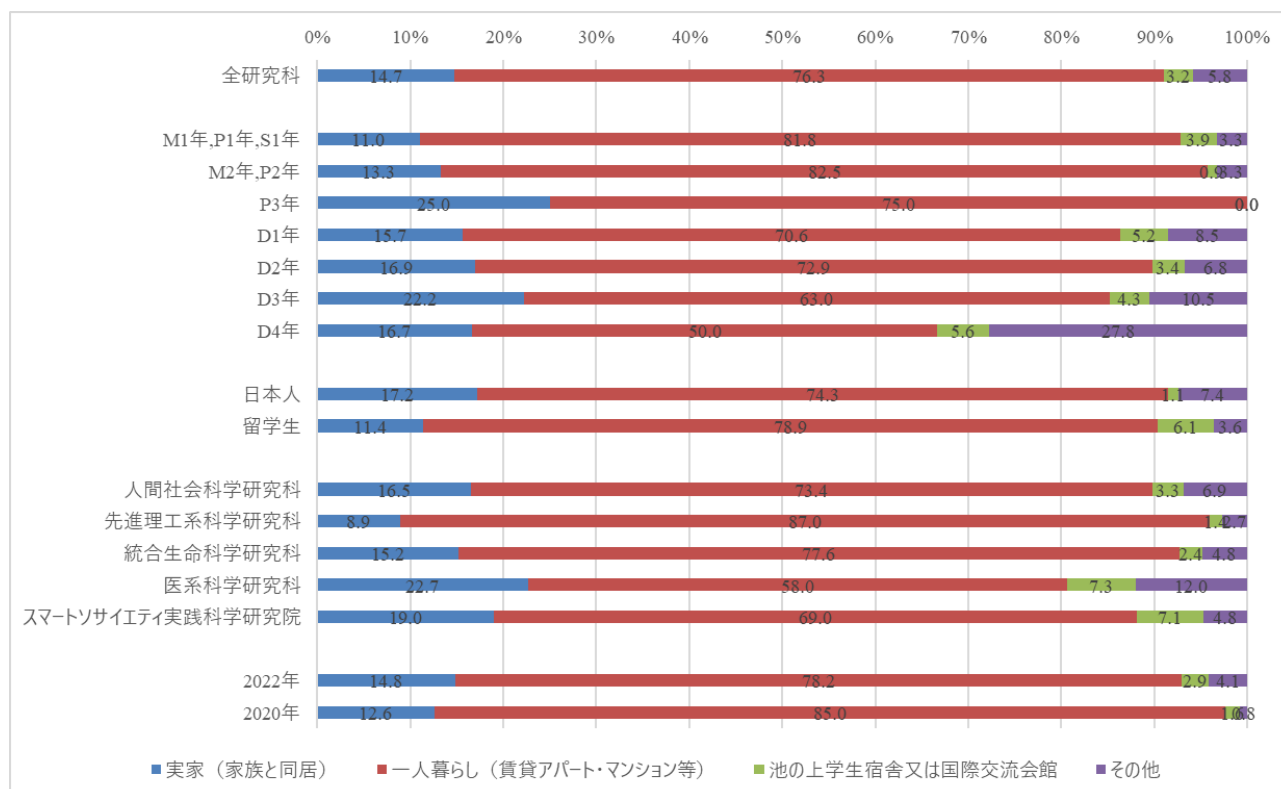
全体の傾向として、P3を例外として、必要とする経費に生活費を挙げる院生が最も多く、いずれも70%近くに達する。ついで住居費を挙げる院生が多く、60%を超えている。他はいずれも10%を下回っている。学年別で見ると、P3を例外として、必要とする経費に生活費を挙げる院生が6~8割程度に達する。日本人と留学生を比べると生活費、住居費ともに留学生は日本人に比して多く必要とする院生割合が高く、生活費については日本人院生の63.4%、留学生の78.3%が多く必要とすると認識している。住居費についても日本人が50.5%であるのに対し、留学生が80.2%に達している。研究科別では、スマートソサエティ実践科学研究院が突出しており、他の研究科において住居費を「多く必要とする経費」として挙げている院生が6割前後であるのに対し、スマートソサエティでは8割を超える。生活費については他の研究科では院生の6割が「多く必要とする経費」と認識しているが、スマートソサエティでは8割近くに達している。



4 住居・通学の状況

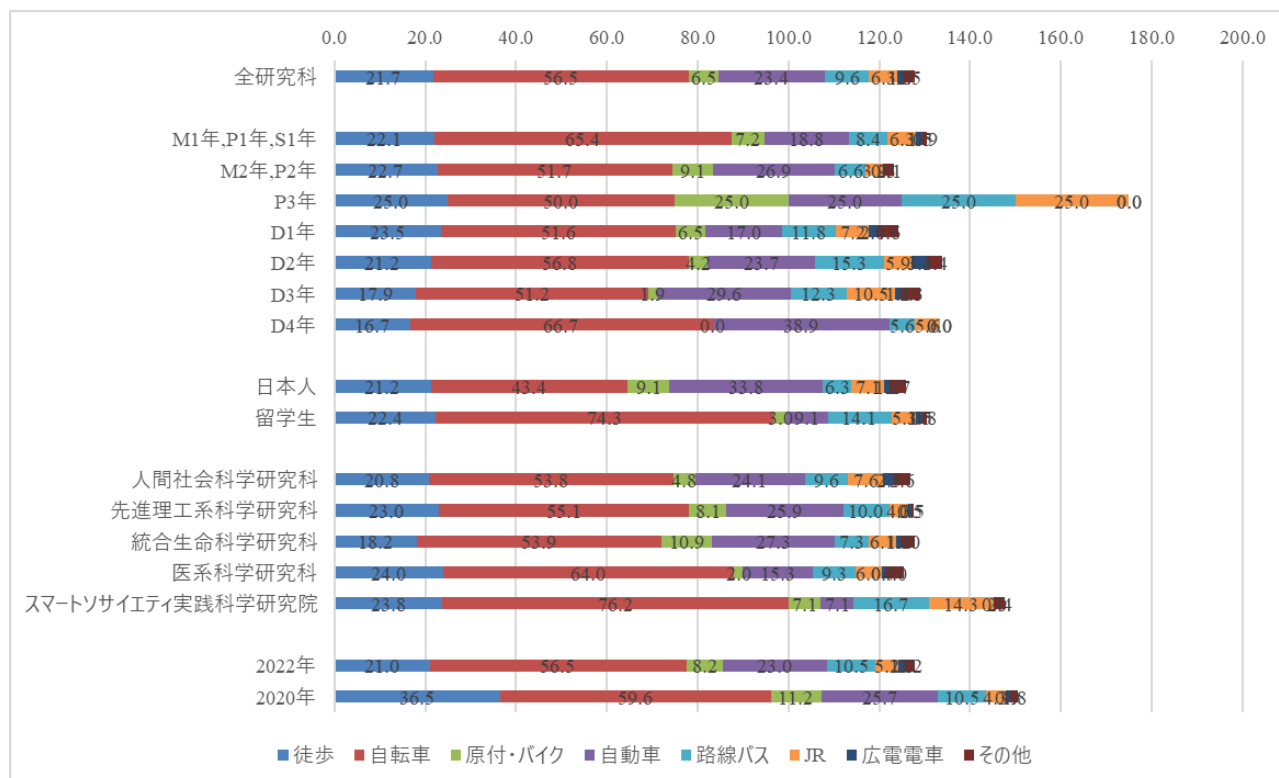
設問 12 居住形態を教えてください。

全体傾向として、実家がおおよそ15%、一人暮らしが8割近くとなっている。学年別では、P3、D3の実家暮らしの割合が他に比して若干高い。D4は「その他」と答えた院生の割合が高く、その内実の検討を要するかもしれない。日本人と留学生を比較すると、若干の差は見られるものの、あまり大差は無いと言える。研究科別で見ると、医学系研究科の実家暮らし割合が他研究科院生よりも若干高く、22%を超えている。年度別では大差は無いと言える。



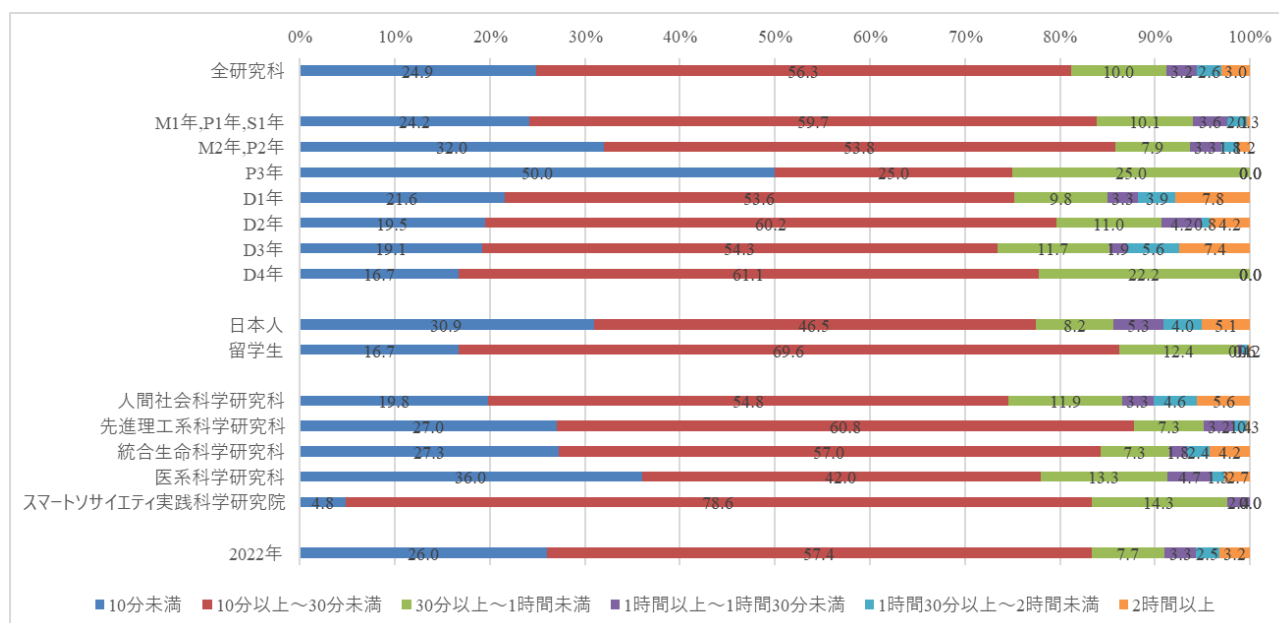
設問 13 主な通学方法を教えてください。(複数回答可)

過半数を占めているのは自転車通学であり、次いで徒歩・自動車が2割前後である。他は1割を下回る。学年別に見ると初年次とD4時点での徒歩通学が6割を超えるが、他の学年ではおおそ5割前後である。特徴が見られるのは自動車通学であり、初年次(M1, P1, S1, D1)から学年が進行するにつれて自動車を利用した通学者が増える傾向にあり、18%前後から25%前後そして30%近くまで上昇する。日本人と留学生との間にも顕著な差があり、留学生は圧倒的に自転車が多い(74.3%)が、日本人は43.4%に留まる反面、日本人の自動車利用は3割にも達するが留学生は1割に満たない。研究科別に見ると、人社・先進理工・統合生命では5割の学生が自転車通学であるが、医科系では64%、スマートソサエティでは76%に達する。反面前述3研究科の自動車利用割合は医系・スマートソサエティに比して高く、25~30%近くに達している。他方で医系は15%、スマートソサエティでは7%程度に留まっている。年度別に見てみると、2020年度から2022年度にかけて徒歩通学割合が大きく減少している点が特徴的である(36.5% → 21.0%)



設問 14 通学にかかる時間を教えてください。

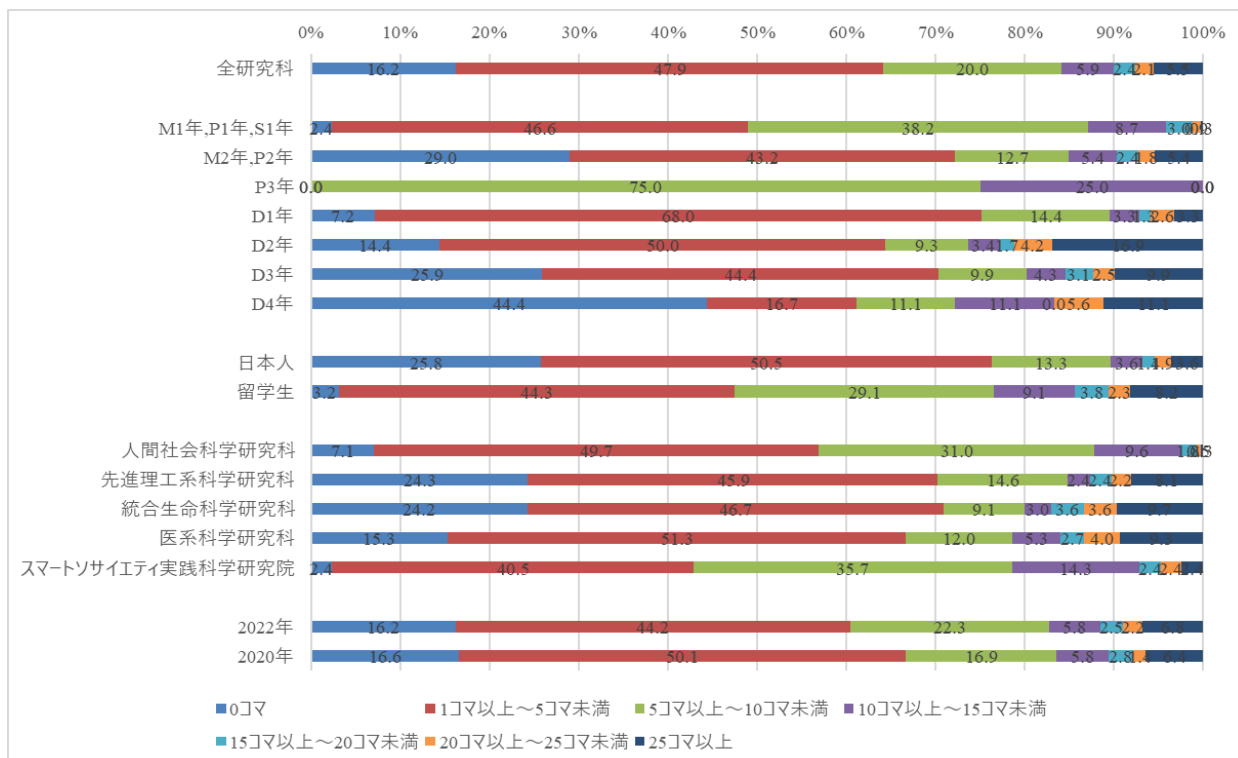
全体の傾向として、30分未満までが全体の8割を超える。学年別では、M、Pでは学年進行に応じて10分未満の割合が大きく増加する(24.2, 32, 50%)。Dになると学年進行に応じて10分未満の割合が微減する。またP3、D4は30分~1時間の割合が2割を超え他の学年より多い。日本人と留学生を比較すると、日本人学生は10分未満の割合が留学生のおよそ2倍(30.9%と16.7%)であり、トータルでは留学生の方が通学にかかる時間が多めである。研究科別では、研究科間の差が大きい。10分未満の割合を見ると、スマートソサエティでは5%未満と極端に少ないが、人間社会・先進理工・総合生命・医系はそれぞれ19.8, 27.0, 27.3, 36%となっている。これは居住形態に応じた結果であろう。年度別では、大きな差はない。



5 修学の状況

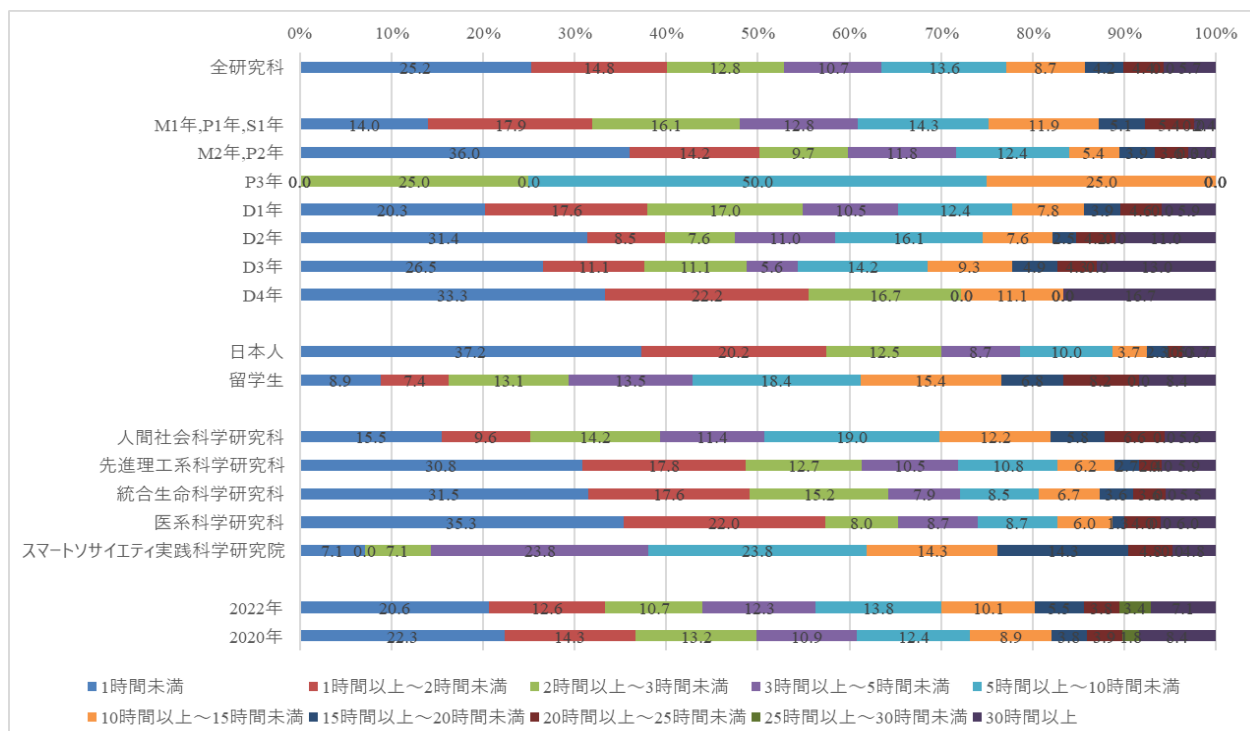
設問 15 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の出席にあてていますか。

全体の傾向として、ボリュームゾーンは0～5コマであり4割強である。学年別では、P3を例外として、初年次に授業が集中していることから当然ではあるが、学年進行に応じて出席する授業時間が激減していることがわかる。日本人と留学生を比較すると、日本人の授業コマ数ゼロの割合が留学生に比しても圧倒的に多い（25.8%, 3.2%）点は、注意しておく必要がある。研究科別では、研究科間で格差が大きい。先進理工・総合生命は25%近くが授業コマ数ゼロであるが、医系は15%, 人間社会科学は7%, スマートソサエティは2%である。年度別では、大きな差は無い。



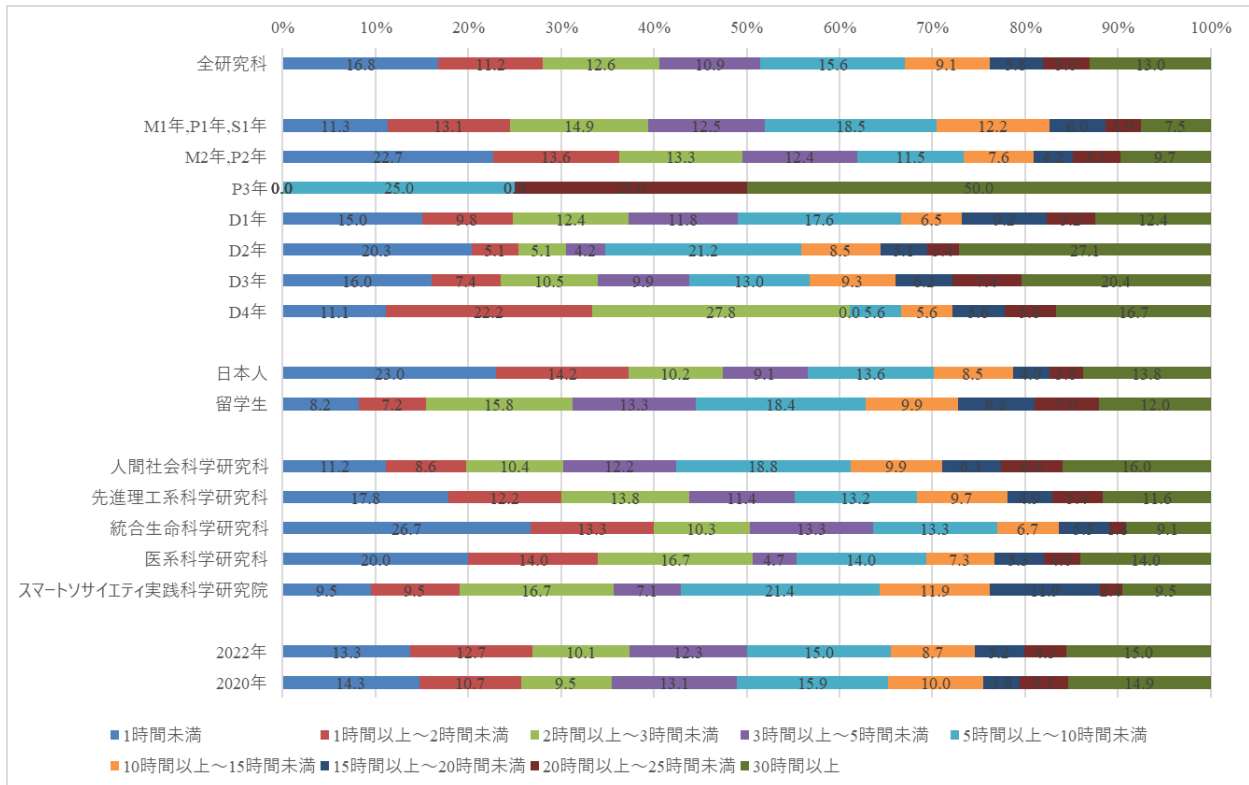
設問 16 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の課題、準備・復習などにあてていますか。

全体の傾向として、1時間未満が25%, 次いで1～2時間（14.8%）, 5～10時間（13.6%）, 2～3時間（12.8%）となっている。学年別では、P3を例外として、M,P,Dいずれも学年進行に伴い1時間未満の割合が増え、M2,P2,D4になると3割を超える。受講すべき（必修の）授業の減少に連動していると思われる。日本人と留学生を見ると、日本人は留学生に比して1時間未満の割合が4倍以上である。研究科別では、先進理工・総合生命・医系の院生は他の研究科に比して1時間未満の割合が3割を超え、人社系の2倍、スマートソサエティの4倍以上となっている。



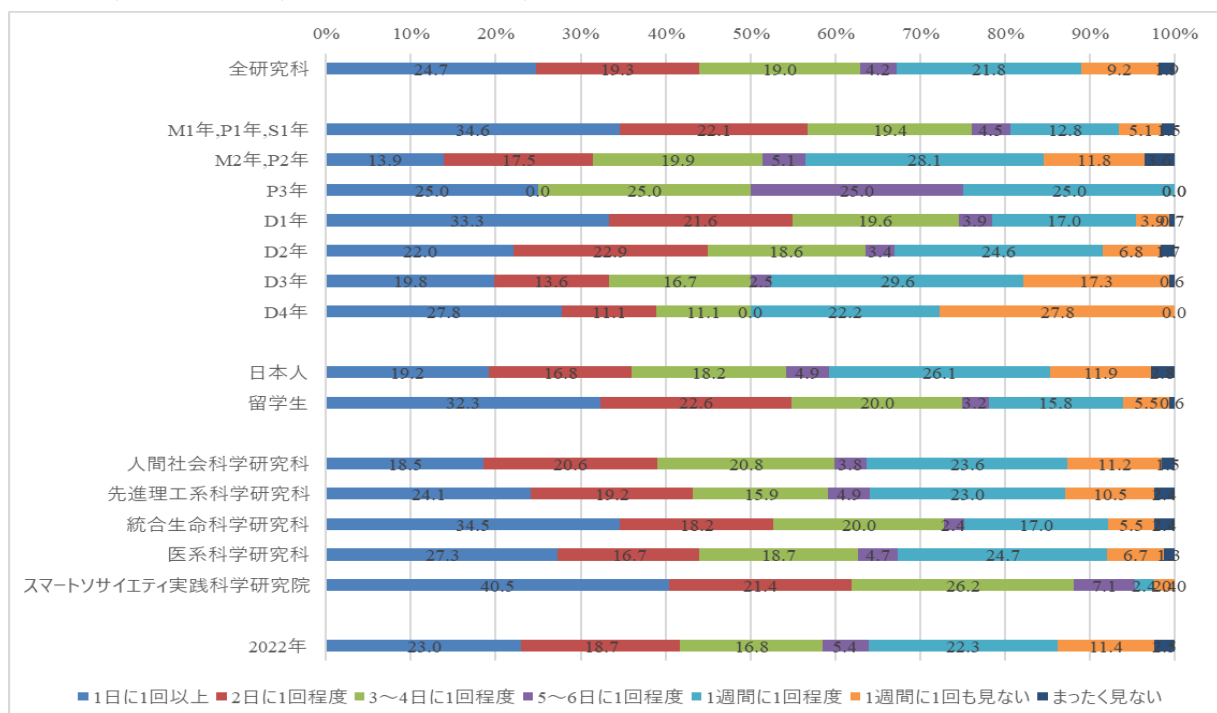
設問17 授業期間中, 平均して1週間でどれくらいの時間を授業とは関係のない自主的な学習にあてていますか。

全体傾向としては分散傾向である。最も多いのは1時間未満(16.8%), 次いで5~10時間(15.6%), 30時間以上(13.0%), 2~3時間(12.6%)となっている。学年別では, P3が例外となっており, 30時間以上授業外学習につき込んでいく割合が5割に達している。他は比較的分散傾向となっている。日本人と留学生を比べると, 留学生の方が授業外学習に時間を費やす傾向にある。研究科別では, 統合生命は1時間未満の割合が最も多く25%を超える。次いで医(20%), 先進理工(17.8%), 人社(11.2%), スマートソサエティ(9.5%)の順となっている。年度別では, 大きな差はない。



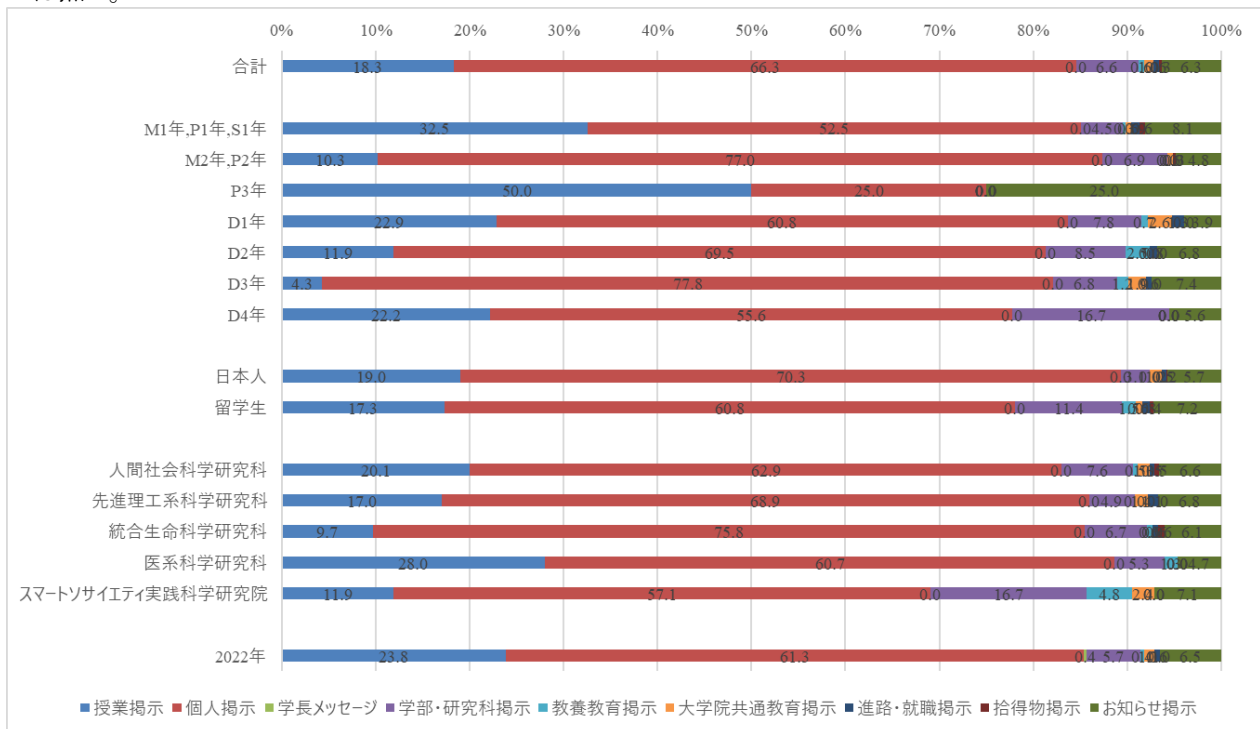
設問18 My もみじを確認する頻度はどれくらいですか。

全体の傾向として, 1日に一回以上が24.7%と最も多く, 次いで一週間に一回(21.8%), 2日に一回(19.3%), 3~4日に一回(19.0%)と続く。学年別でM1,P1,S1あるいはD1には30%を超える院生が1日に一回確認するが学年進行に伴いその頻度は一気に10~20%減少する傾向にあり, 若干の学年間差異はあるが, 3~4日に一回の頻度での確認がボリュームゾーンになるP3やD4は例外的に1日に一回の確認頻度である者が増え, 25%前後に達する。日本人と留学生では, 日本人よりも留学生の確認頻度が多い。研究科別では, 研究科間で格差あり。1日一回の確認頻度については, スマートソサエティが4割を超え, 次いで統合生命(34.5%), 医(27.3%), 先進理工(24.1%), 人社(18.5%)となっている。年度別で大きな差は無い。



設問 19 My もみじで最も多く確認する掲示情報はどれですか。

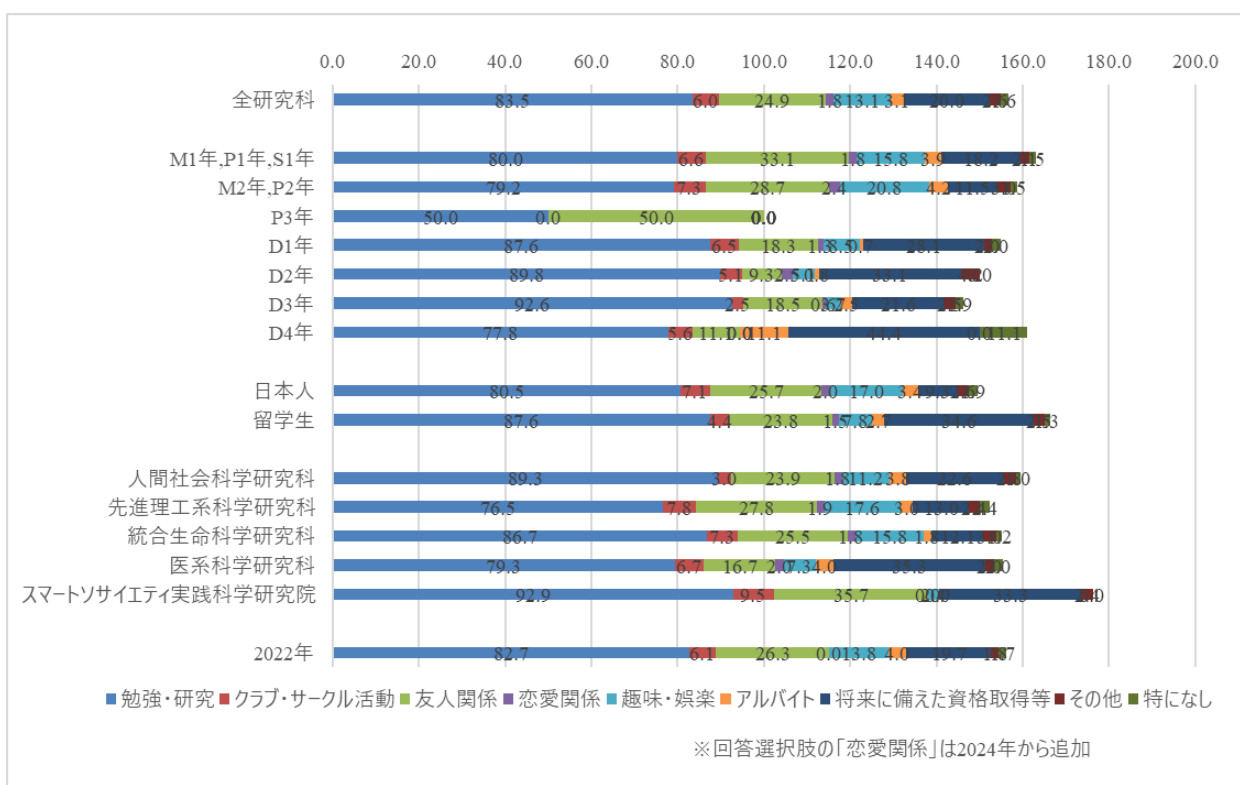
全体の傾向は、個人掲示の確認がもっとも多く、6割を超える。授業掲示の確認は20%に満たない。学年別では、初年次には授業掲示の確認がM,Pでは3割程度、Dでは2割程度であるが、学年進行に伴いその確認割合は大きく減少する(M2, P2は10%程度、D3は5%未満)。P3, D4では回復傾向が見られる(P3は50%, D4は20%超)。日本人と留学生を比べると授業掲示確認は大差ない(17~19%)が、個人掲示の確認は日本人は70%で留学生(60%)より割合が高い。研究科別で見ると、全般的に個人掲示の確認割合が高い(60-70%)。医学系は他研究科に比して個人掲示確認割合が高い(28%。他は9~20%)。特異な点は、スマートソサエティでは学部・研究科掲示確認の割合が他研究科に比して高い(16.7%。他は10%未満)点である。年度別で大差は無い。



6 学生生活の状況

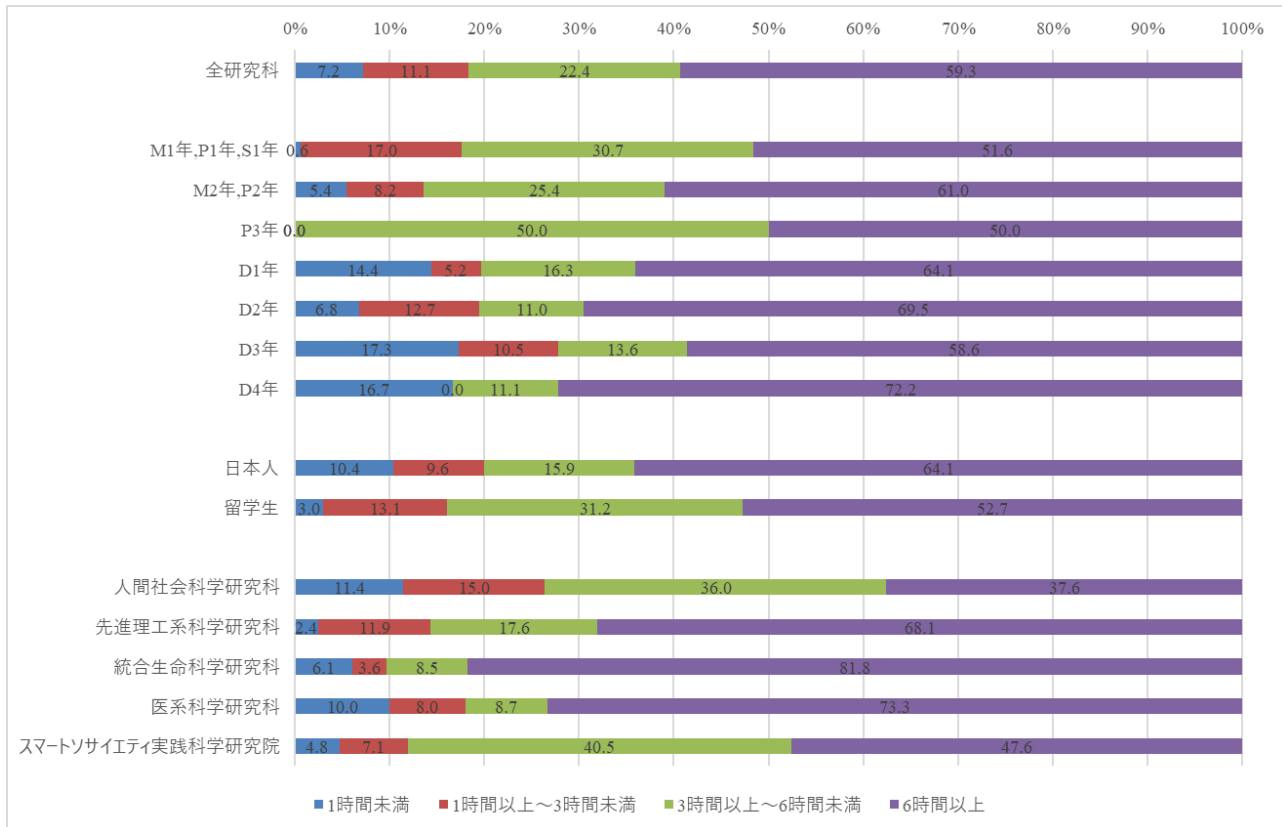
設問 20 大学生生活において特に大切にしているものは何ですか。(複数回答可)

2022年度の調査と比較して、全体として勉強・研究を大切にしている学生の割合は同程度であった。博士課程前期より後期学生の方がその割合は高く、また、留学生の方が日本人学生よりも高い。部局別では、スマートソサエティ実践科学研究院の「勉強・研究を大切にしている学生」の割合が92.9%と他の研究科と比較して突出して高く、これは留学生の割合が要因であると考ええる。



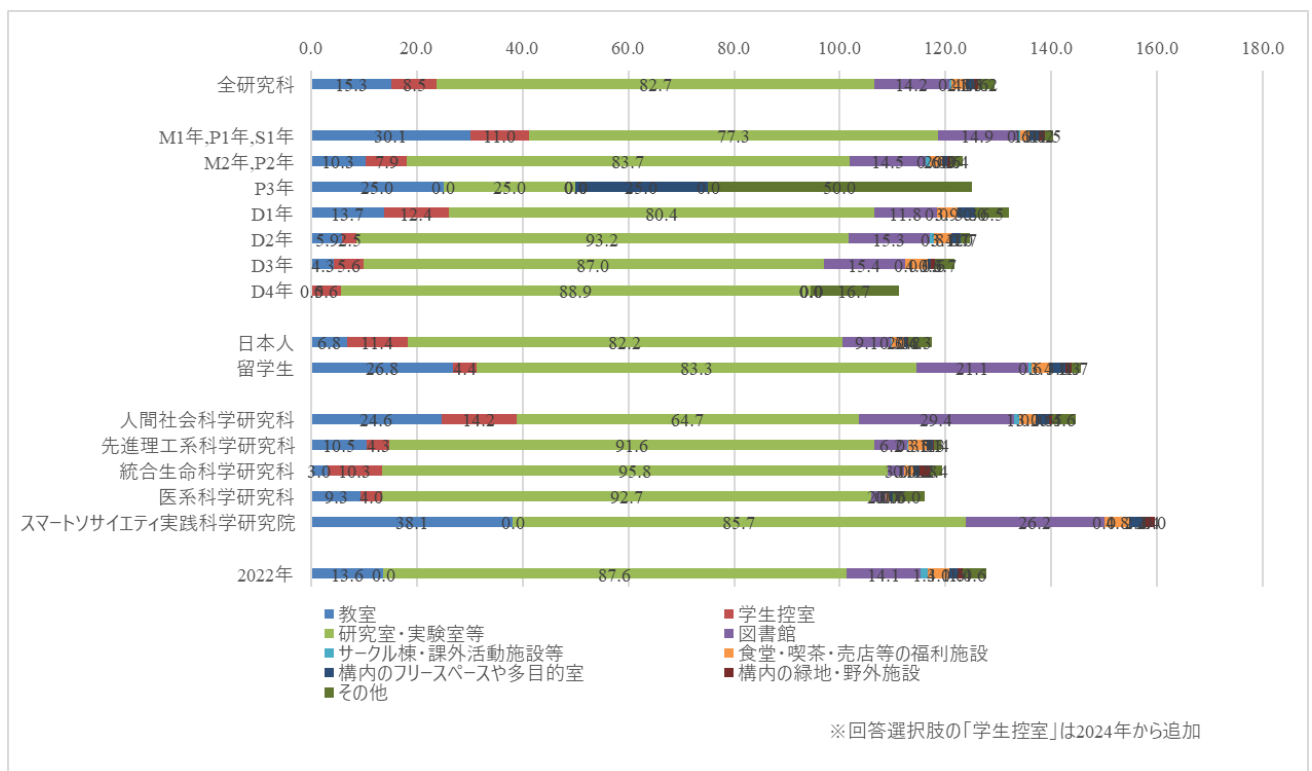
設問 21 授業期間中、平均して1日に大学構内にどれくらいの時間滞在していますか。

大学構内での滞在時間は、59.3%が6時間以上であり、博士課程前期より後期学生の方が滞在時間は長い。また、設問20とは異なり、留学生よりも日本人学生の滞在時間が長い。文系と比較して理系の研究科において6時間以上の滞在比率が増加する傾向にある。



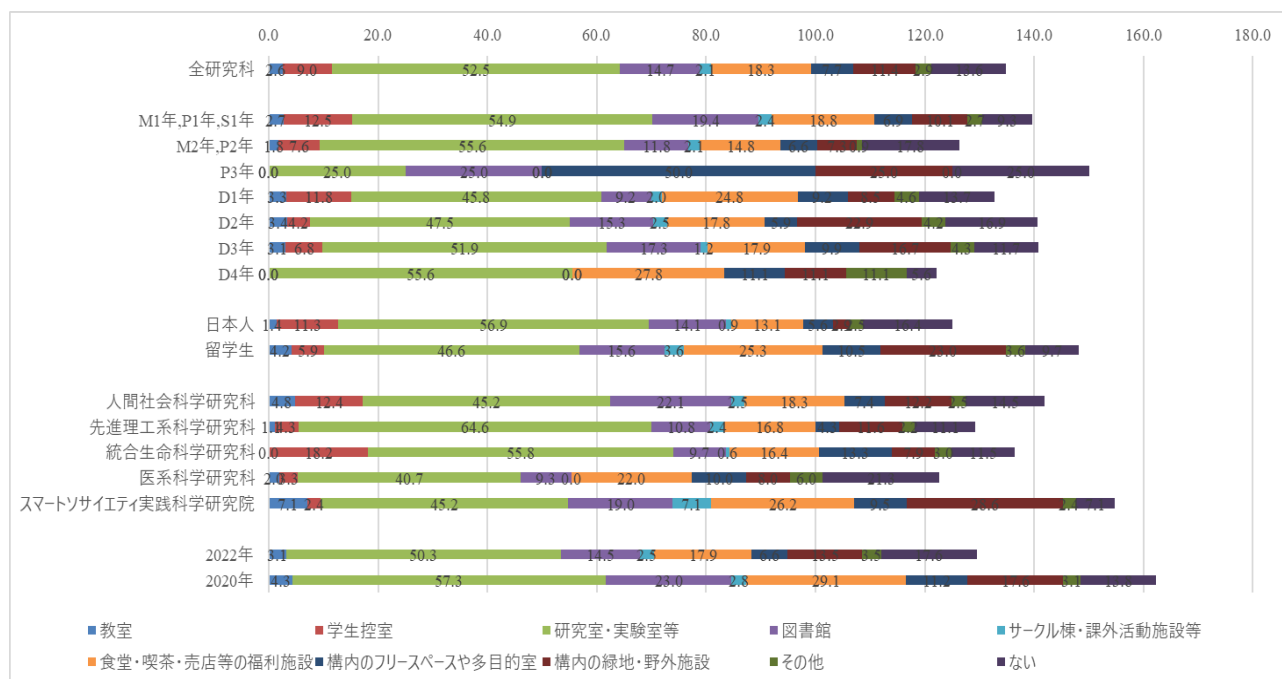
設問 22 大学構内の滞在時間のうち、多く滞っている場所はどこですか。(複数回答可)

多く滞在する場所は、「研究室・実験室等」が82.7%と最も多が、2022年調査よりは減少している。しかし前回調査の選択肢にない「学生控室」の割合は8.5%であることから、91.2%は研究室付近に多く滞在していると考えられる。学年別で見ると、学年進行により研究室等での滞在時間が長くなる傾向にあった。理系と比較して、文系の研究科では図書館での滞在が多い傾向にあった。



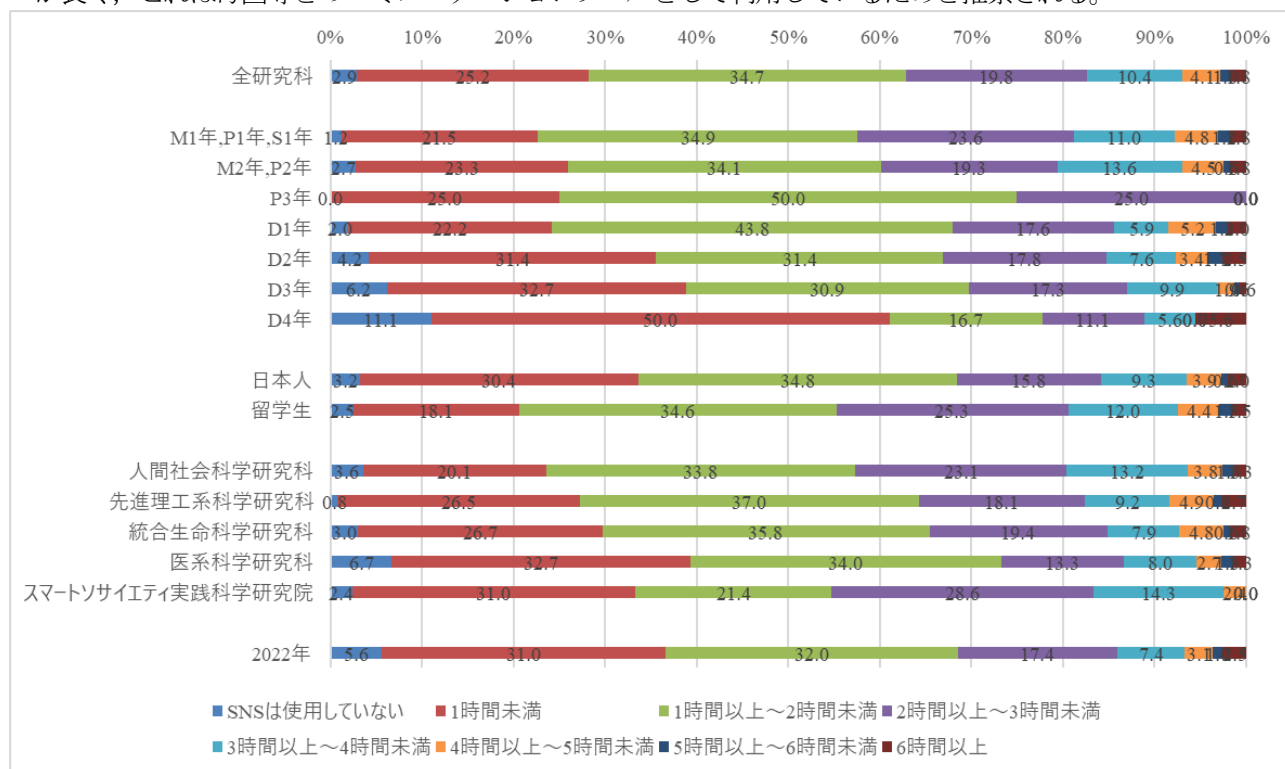
設問 23 大学構内にくつろいで過ごせる場所がありますか。(複数回答可)

設問 22 と同様に、くつろげる場所としても「研究室・実験室等」と「学生控室」が 61.5% と高く、以上のことから、学生は個人スペース、比較的少人数で過ごせる場所でくつろいでいると推察される。また、留学生は日本人学生と比較して、構内の緑地・野外施設でくつろぐ傾向にある。



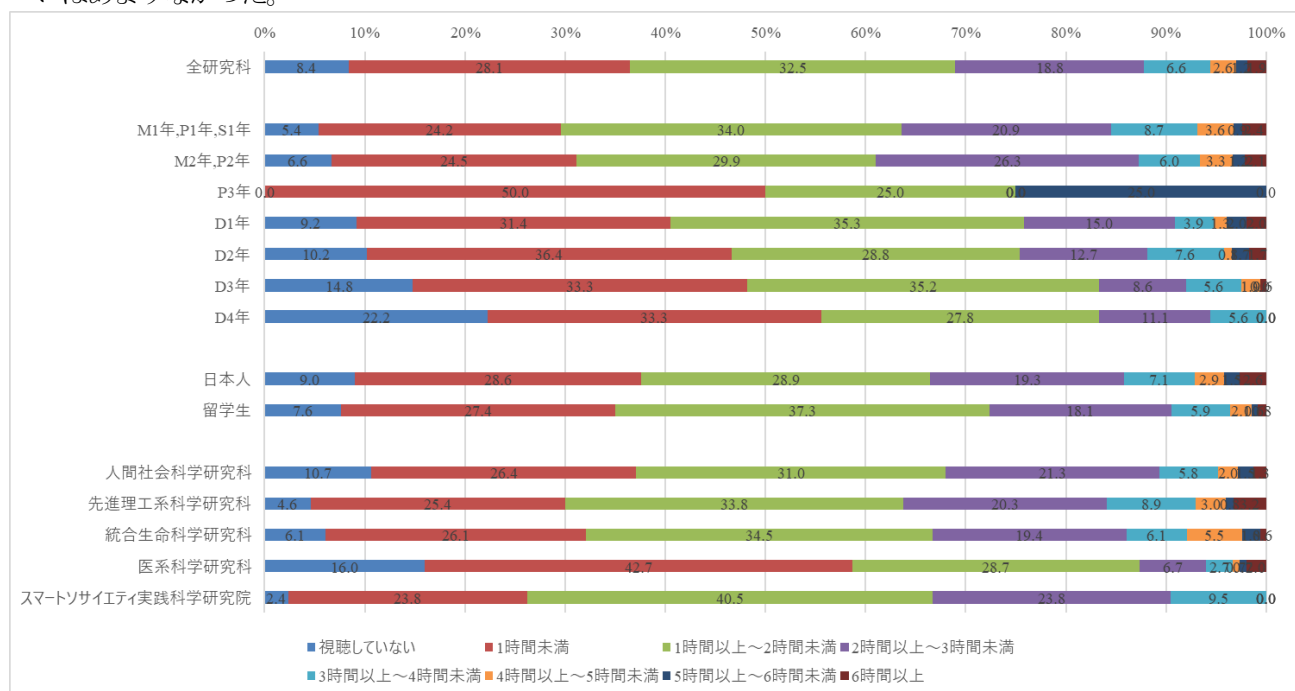
設問 24 Instagram・LINE・BeReal・X・Facebook・WeChat 等の SNS (Social Network Service) を 1 日でどれくらいの時間使用していますか。

全体として、SNS を「使用していない」大学院生は 2.9%, 1 時間未満は 25.2% であり、1~2 時間は 34.7%, 2~3 時間は 19.8%, 3 時間以上は 17.0% であった。この傾向は 2022 年度の調査と同様であり、学生の 79% は、1 日の内、0~3 時間程度を SNS に費やしており、大学院生にとって、SNS は情報収集、コミュニケーションツールとして生活に浸透していることが推察される。特に留学生は日本人学生と比較して SNS 使用時間が長く、これは母国等とのコミュニケーションツールとして利用しているためと推察される。



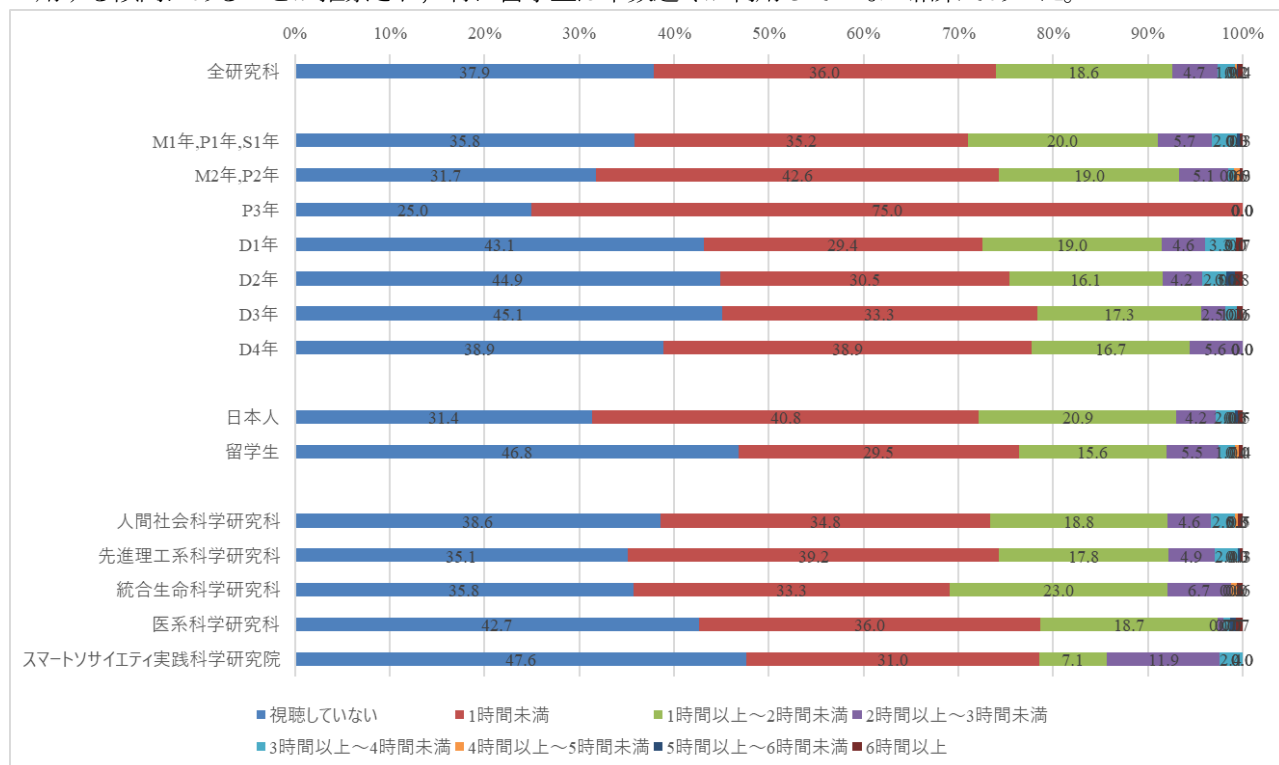
設問 25 平均して 1 日に、YouTube・TikTok 等の動画共有サービスの視聴にどれくらいの時間をあてていますか。

視聴していない学生は全体の 8.4%であり、1 時間未満は 28.1%、1～2 時間は 32.5%、2～3 時間は 18.8%、3 時間以上は 12.2%であった。したがって、学生の 75%強が、1 日の内、0～3 時間ほど動画共有サービスを視聴していた。また多くの大学院生が、設問 24 の SNS および動画共有サービスを情報入手および共有ツールとして利用していると考えられる。動画共有サービスに関しては SNS とは異なり、日本人学生と留学生の違いはあまりなかった。



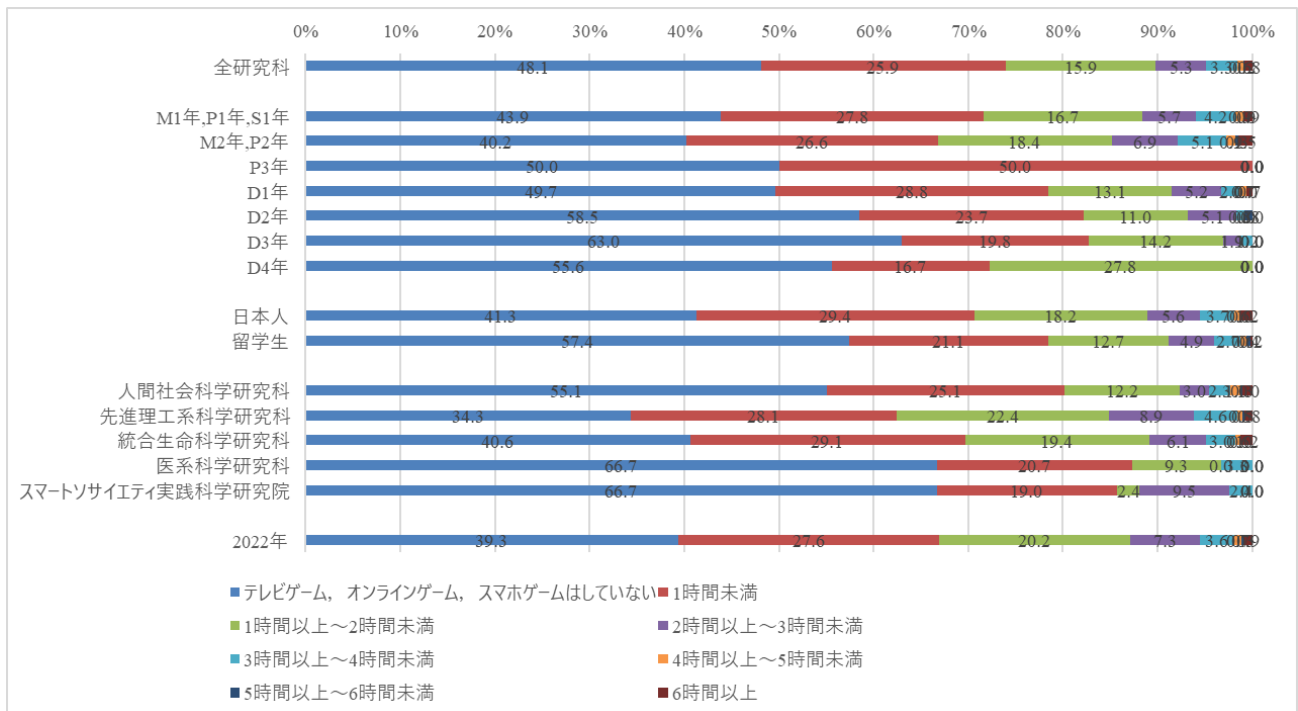
設問 26 平均して 1 日に、Netflix・Amazon プライムビデオ・U-NEXT 等の動画配信サービスの視聴にどれくらいの時間をあてていますか。

設問 24, 25 とは異なり、有料の動画配信サービスの視聴では、利用していない大学院生は 37.9%と多く、1 時間未満が 36.0%、1～2 時間が 18.6%であった。このことから、学生は無料の動画配信、共有サービスを利用する傾向にあることが推察され、特に留学生は半数近くが利用していない結果であった。



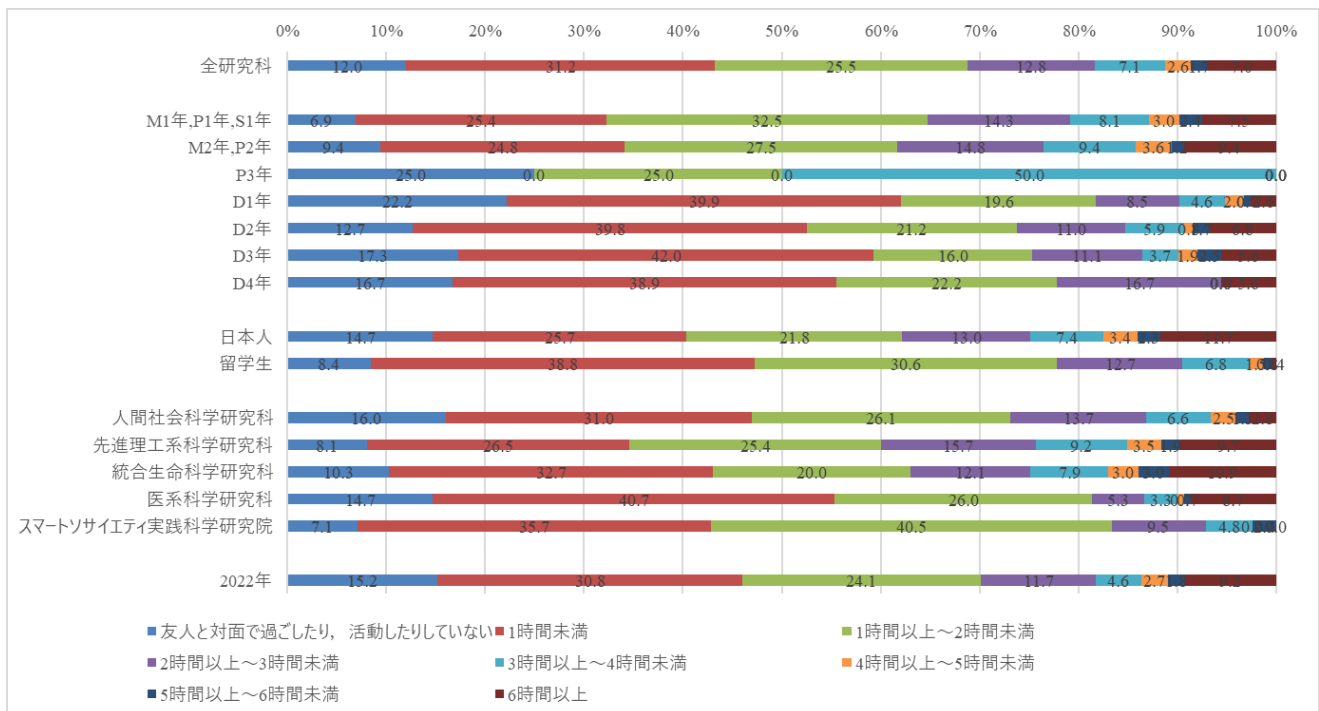
設問 27 平均して1日に、テレビゲーム、オンラインゲーム、スマホゲームにどれくらいの時間をあてていますか。

ゲームに関しては、利用していない学生が48.1%と半数近くが利用していない結果であった。また留学生に関しては60%弱が利用しておらず、部局別では、医系科学研究科とスマートソサエティ実践科学研究所でこの傾向は顕著であった。



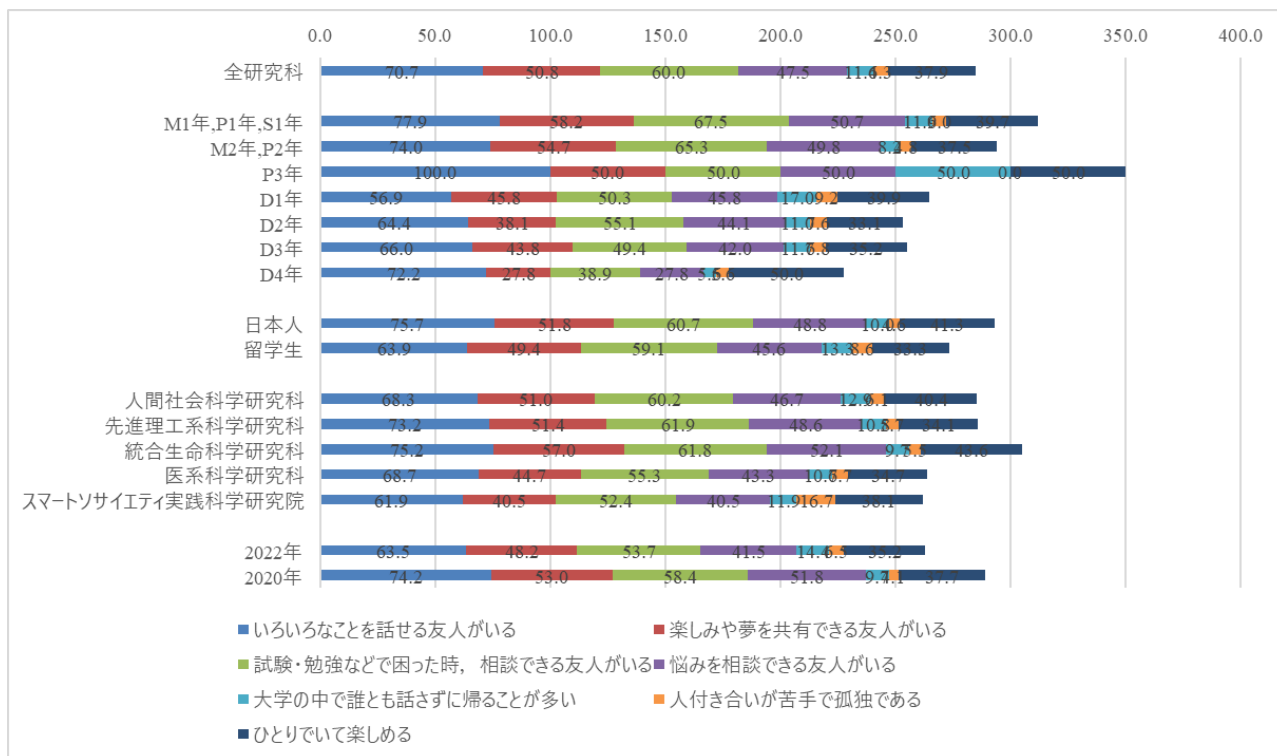
設問 28 平均して1日に、どれくらい友人と対面で過ごしたり、対面で一緒に活動したりしていますか。

友人との活動に関しては、2022年度調査と同様の傾向にあり、「友人と対面で過ごしていない、活動していない」及び過ごしたり活動していてもその時間が「1時間未満」の割合が合計で43.2%であり、博士課程後期の学生の50%以上がその傾向が顕著であり懸念である。



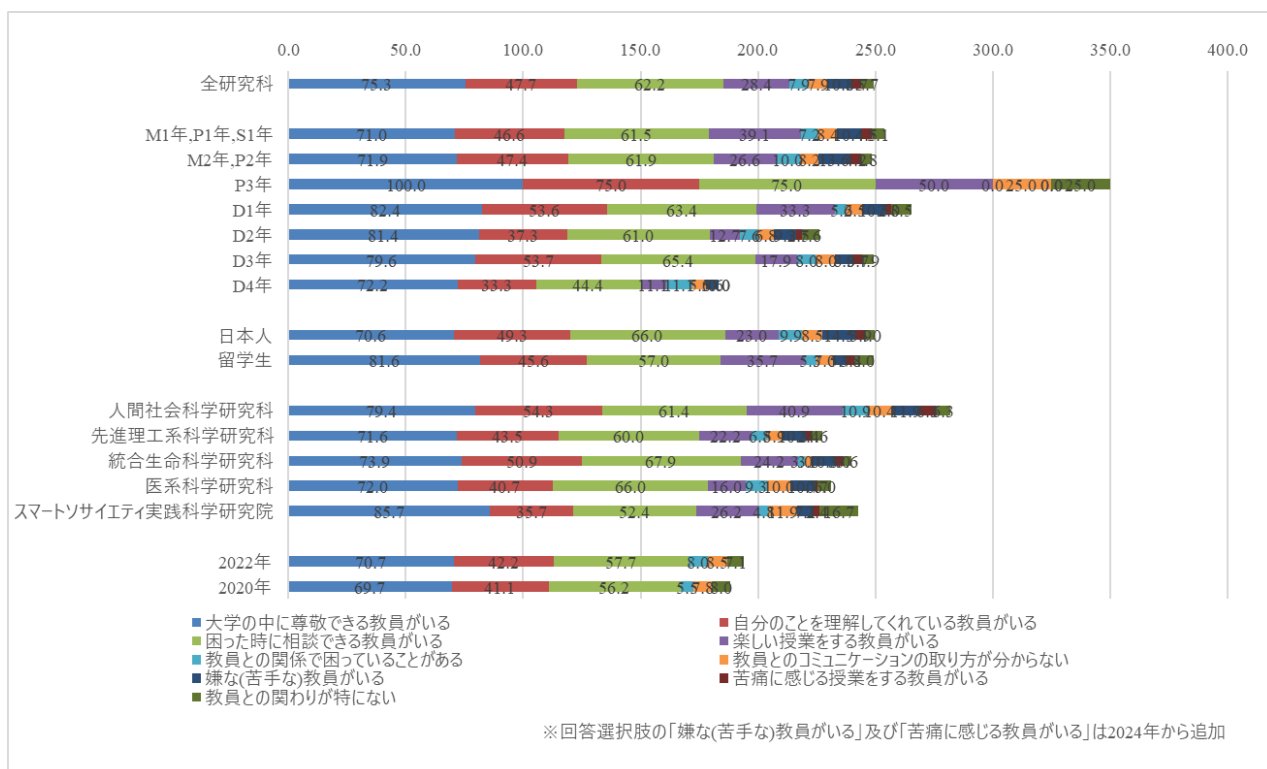
設問 29 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

全体では、大学院生の約 4 人に 3 人は、「いろいろなことを話せる友人がいる」、「楽しみや夢を共有できる友人がいる」、「試験・勉強などで困った時、相談できる友人がいる」と回答している。一方、「人付き合いが苦手で孤独である」、「大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い」と回答する大学院生の割合は 2022 年度の調査と同程度の割合であった。



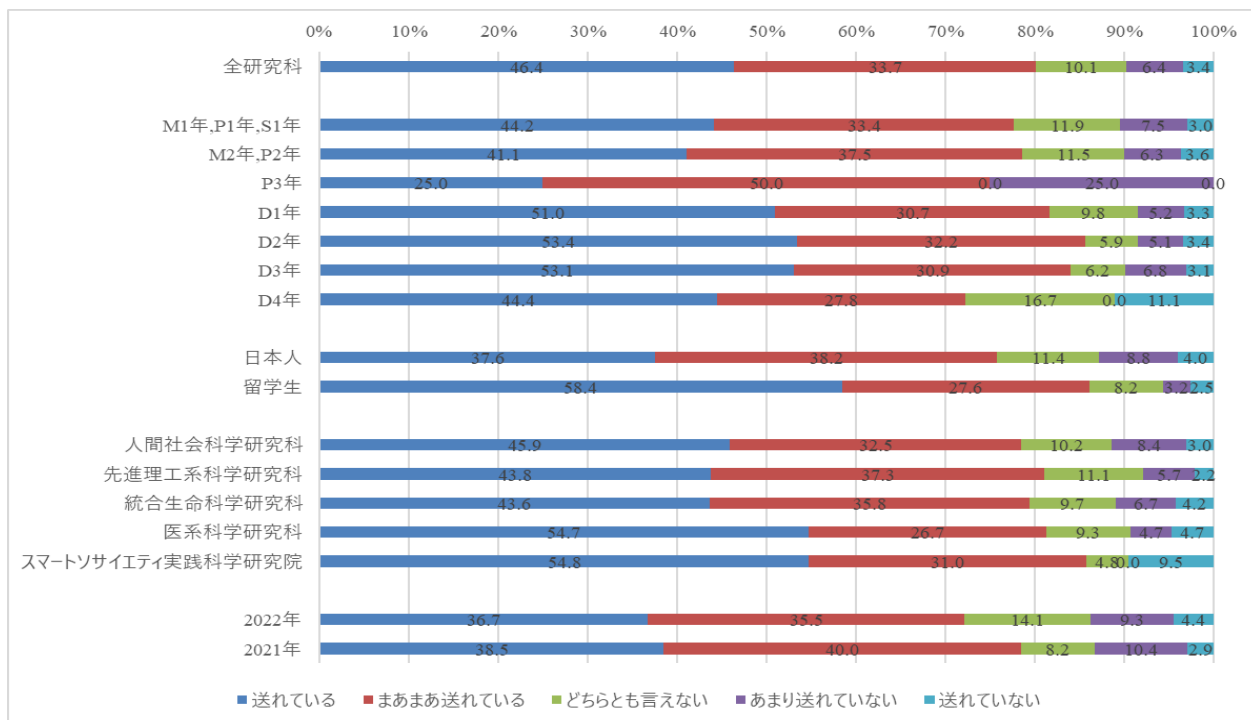
設問 30 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

約 75%の学生が「大学の中に尊敬できる教員がいる」、約 50%の学生が「自分のことを理解してくれる教員がいる」と回答している反面、「教員との関係で困っている」「教員とのコミュニケーションの取り方が分からない」と回答した学生がそれぞれ 7.9%いた。教員との関係に困った時に相談できる教員がいればよいが、「嫌な(苦手な)教員がいる」「教員との関わりが特にならない」という、学生がそれぞれ約 10%, 7.7%おり、教員側から学生への働きかけの必要性が示唆された。



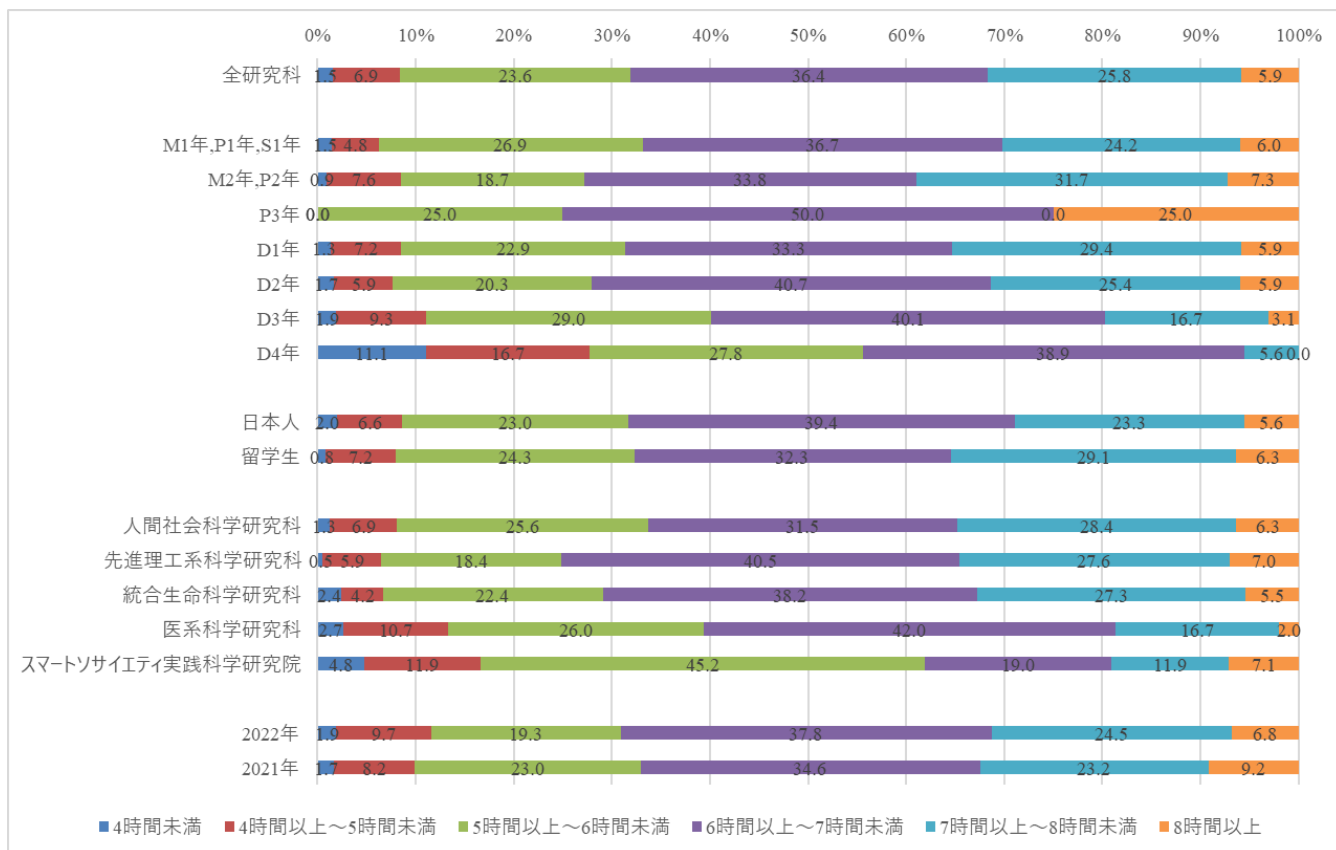
設問 31 授業期間中は、規則正しい生活が送れていますか。

8割の学生が規則正しい生活を送れているようである。「規則正しい生活が送れていない」と回答した学生は、D3 までは約 3%だが、D4 の回答は 11.1%である。P3 と D4 の調査回答者の人数は少ないため、この差が優位であるかどうか、D4 の学生は、生活リズムが乱れがちになる傾向があるという仮説について、統計解析が望まれる。



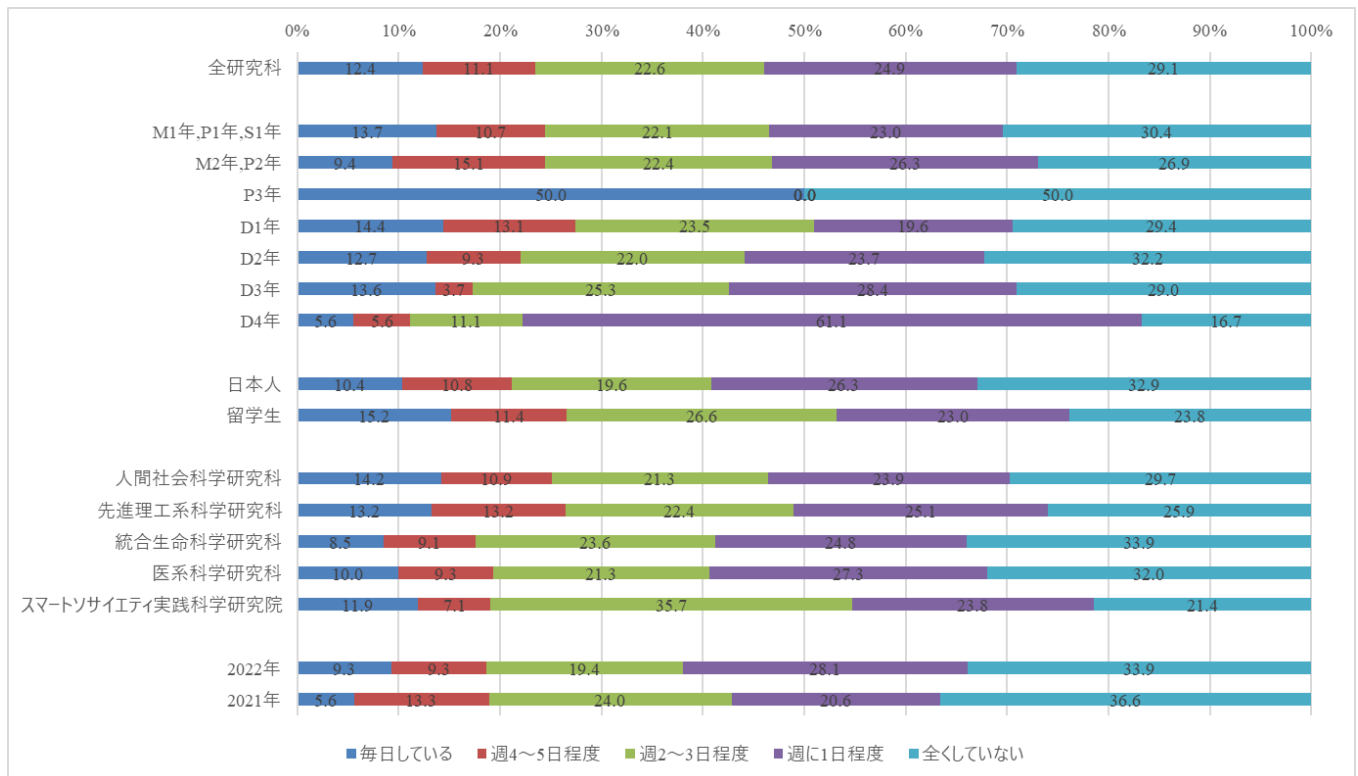
設問 32 現在の平均睡眠時間は何時間くらいですか。

修業年限である D3 までは、5 時間以上の睡眠をとれていた学生の割合が約 9 割であるが、D4 では約 7 割と急に数値が落ち込んでいる。D4 の学生は、D1～D3 の学生と比較して睡眠時間が短い傾向があるという仮説について、統計解析が望まれる。メンタルヘルスに関する調査結果と併せて分析すると実態がより明らかになるのではないかと。



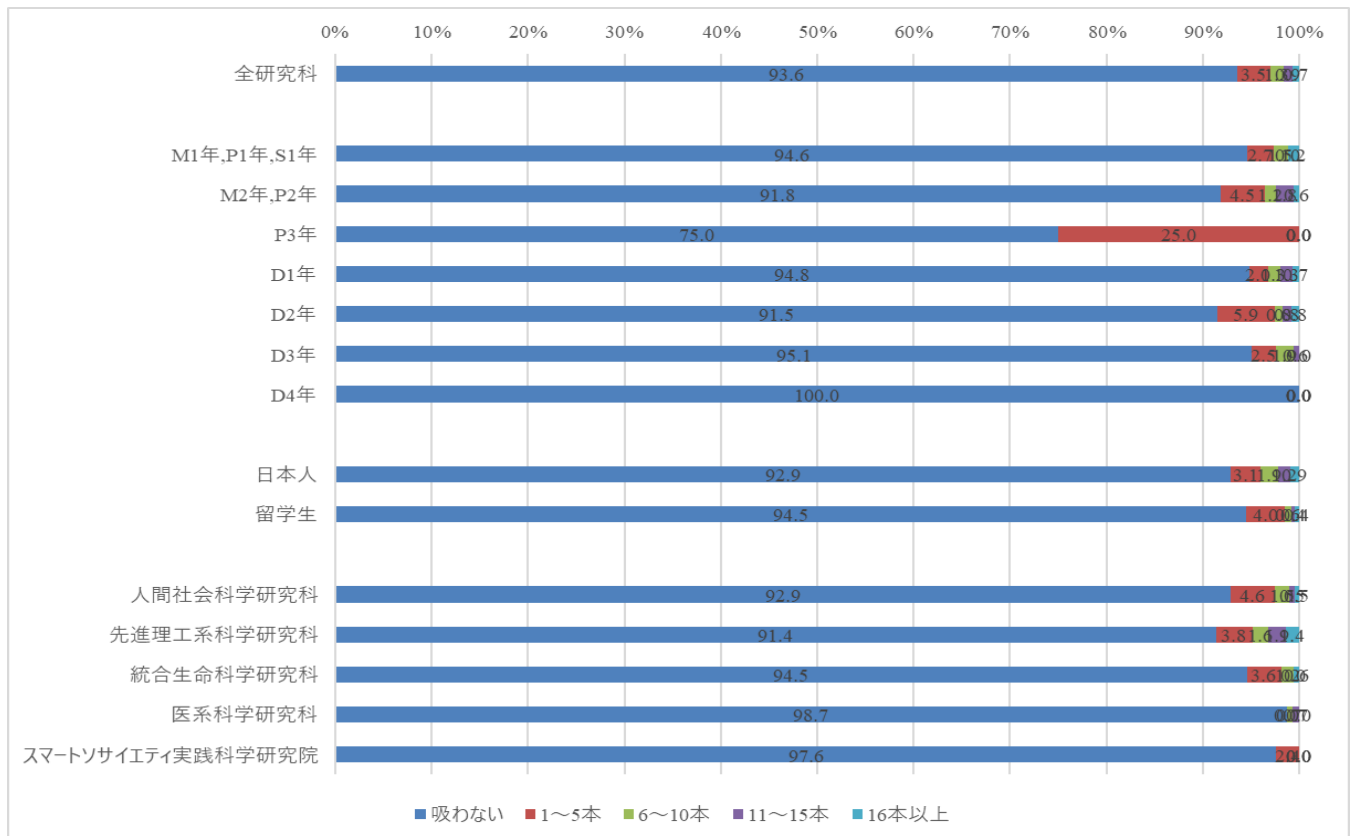
設問 33 現在、定期的に運動（1日30分程度）をしていますか。

全体で約7割の学生が、週に1日以上、定期的な運動をしていると回答している。コロナ禍とその後で、この割合にはほとんど変化は見られないようである。



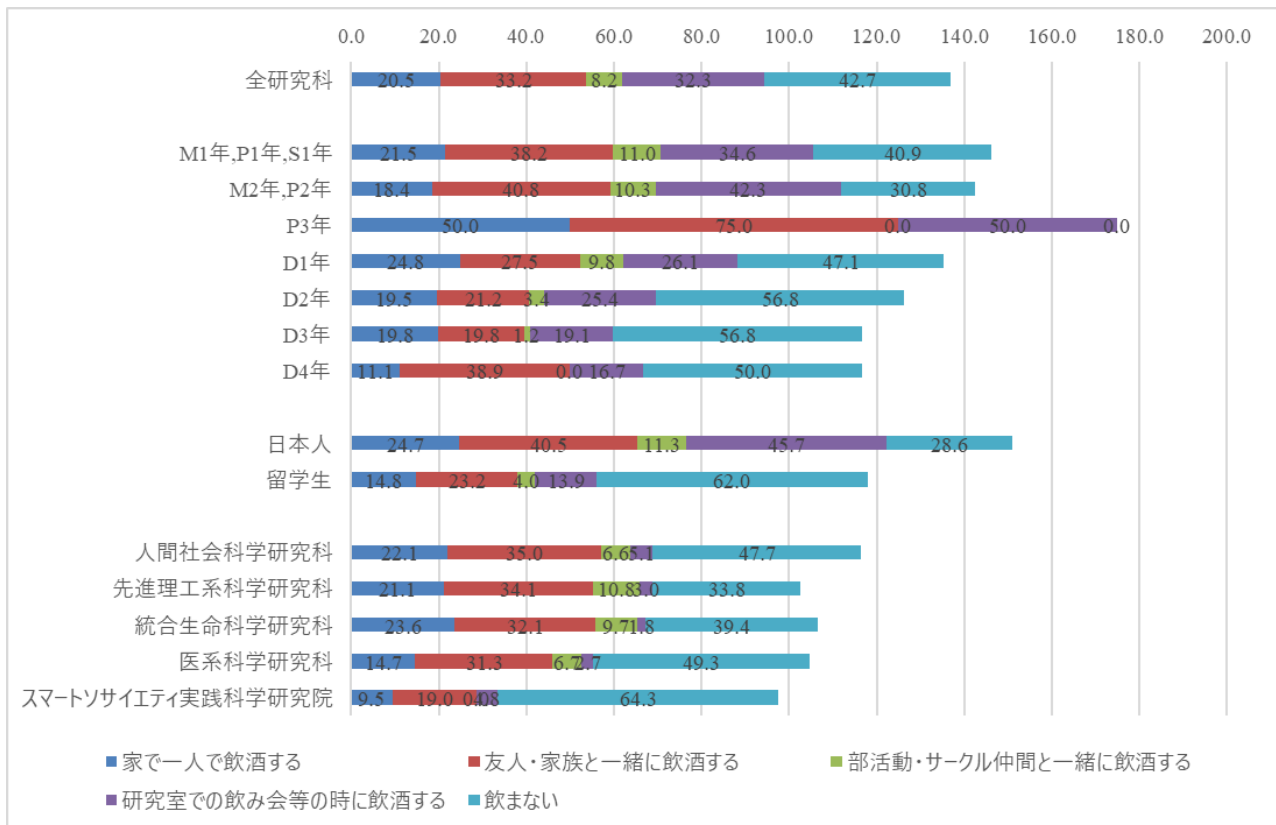
設問 34 喫煙の習慣がありますか。1日に吸う本数をお答えください。

全体の93.6%が非喫煙者であり、喫煙者は、6.4%と、かなりのマイノリティであることがわかった。喫煙者の割合について、日本人と留学生で、ほとんど差が見られなかった。



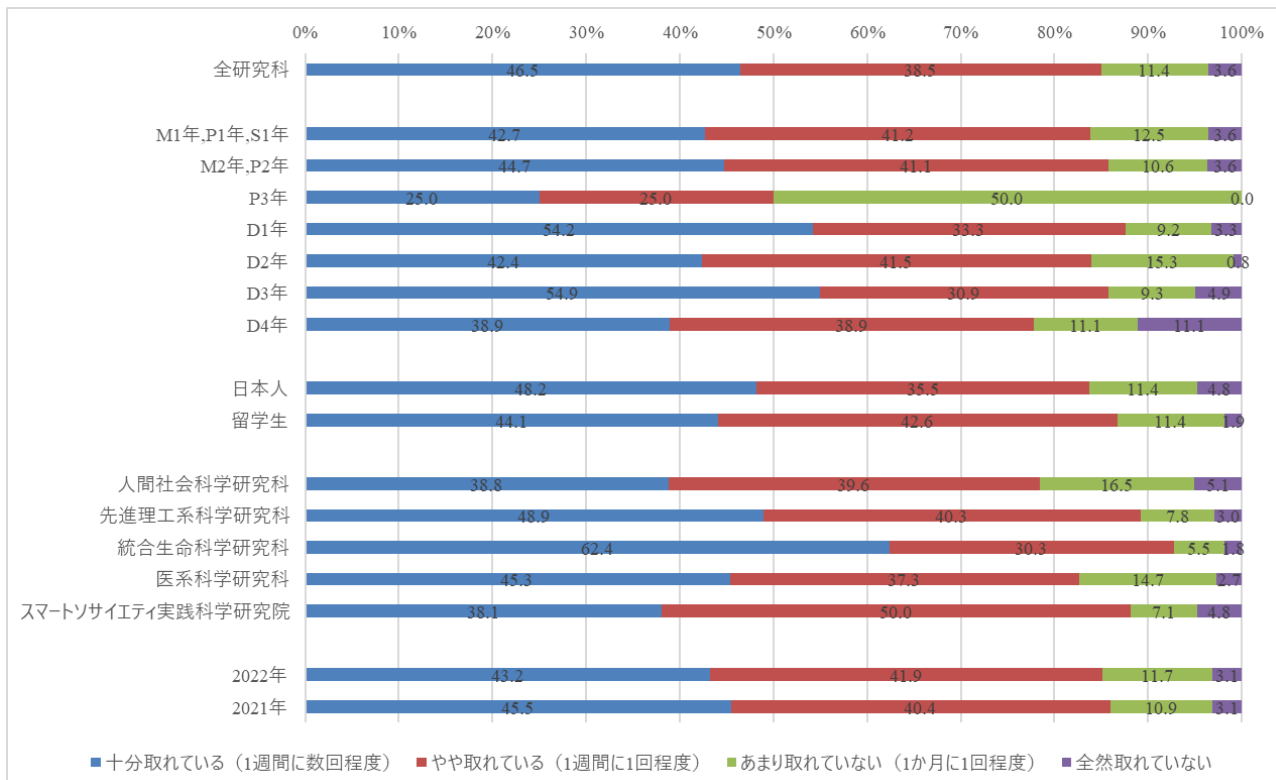
設問 35 飲酒の習慣がありますか。(複数回答可)

飲酒をしない学生が全体の4割であった。ひとりで飲酒する学生は全体の2割であり、多くの学生が、他の人たちと一緒に飲酒する社会的飲酒であった。飲酒をしない学生の割合が、日本人では28.6%、留学生では62.0%と大きな差がみられた。日本人学生に社会的飲酒者が多く、留学生には社会的飲酒も少ないという傾向がみられ、これは、留学生には飲酒をしてはいけないというイスラム学生との割合が影響していると推測される。上記の仮説について、統計解析が望まれる。



設問 36 今年度、教員（指導教員、チューター含む）とコミュニケーションが取れていたと感じますか。

全体の85%の学生が、教員とコミュニケーションが取れていたと回答した。全体の3.6%の学生が「全然取れていない」と回答しており、この割合はD4学生では11.1%となっている。D4の学生はD1～D3の学生と比較して教員とコミュニケーションが取れていないという仮説について、統計解析が望まれる。



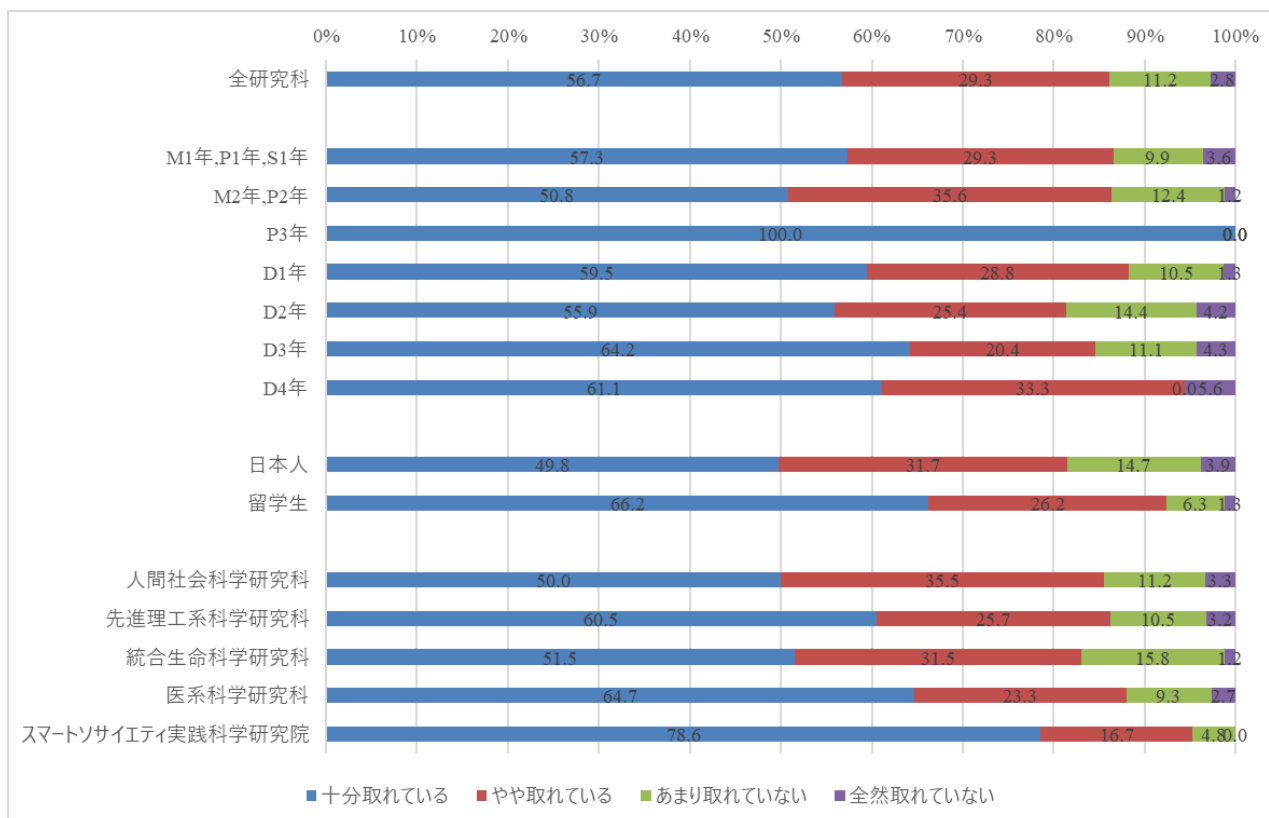
設問 37 今年度、同級生や友人とコミュニケーションが取れていたと感じますか。

コロナ禍の 2021 年と比較し、2022 年に同級生や友人とコミュニケーションが大きく改善されが、2024 年度はさらなる改善が見られ、「全然（コミュニケーションが）取れていない」学生は、3.7%にまで縮小した。



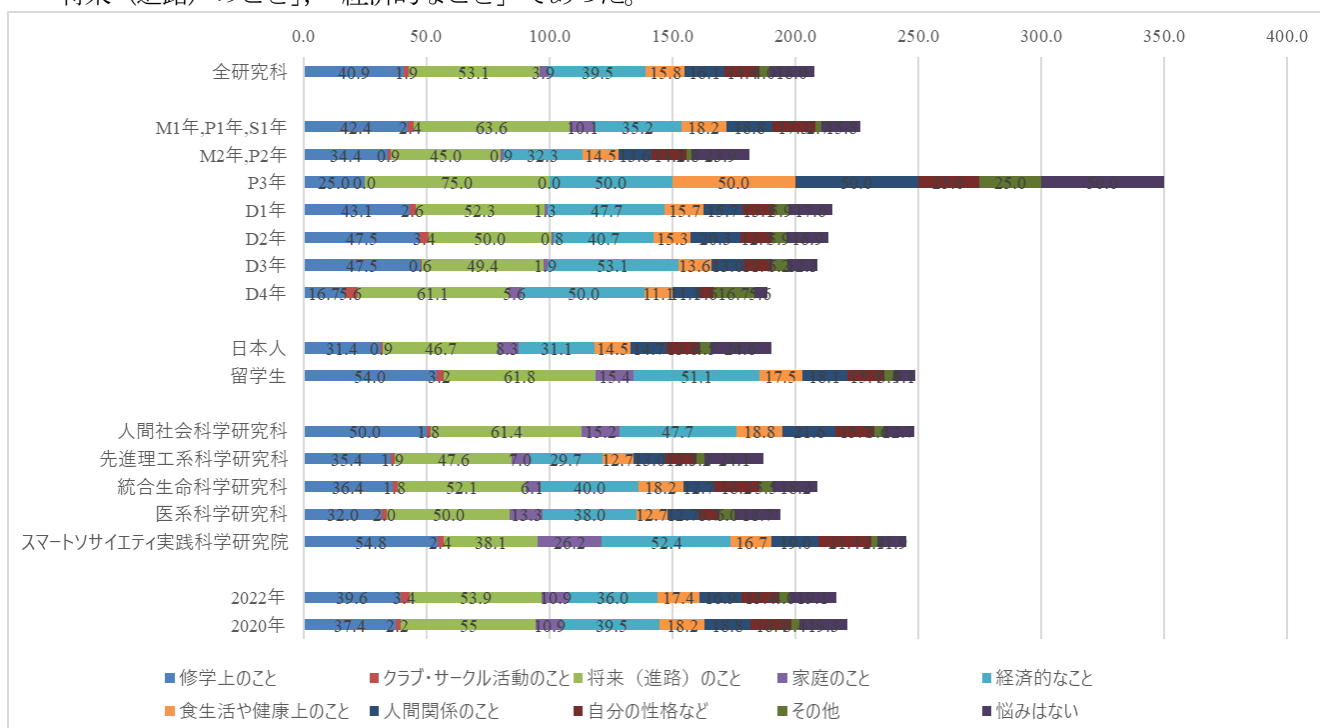
設問 38 今年度、家族とコミュニケーションが取れていたと感じますか。

全体の 86%の学生が、家族とのコミュニケーションが取れていたと回答している。家族と全然コミュニケーションが取れていないと回答した留学生が 1.3%なのに対して、日本人学生は 3.9%がそのように回答し、家族との物理的距離が遠い留学生の方が、家族とコミュニケーションをとっている割合が高かった。



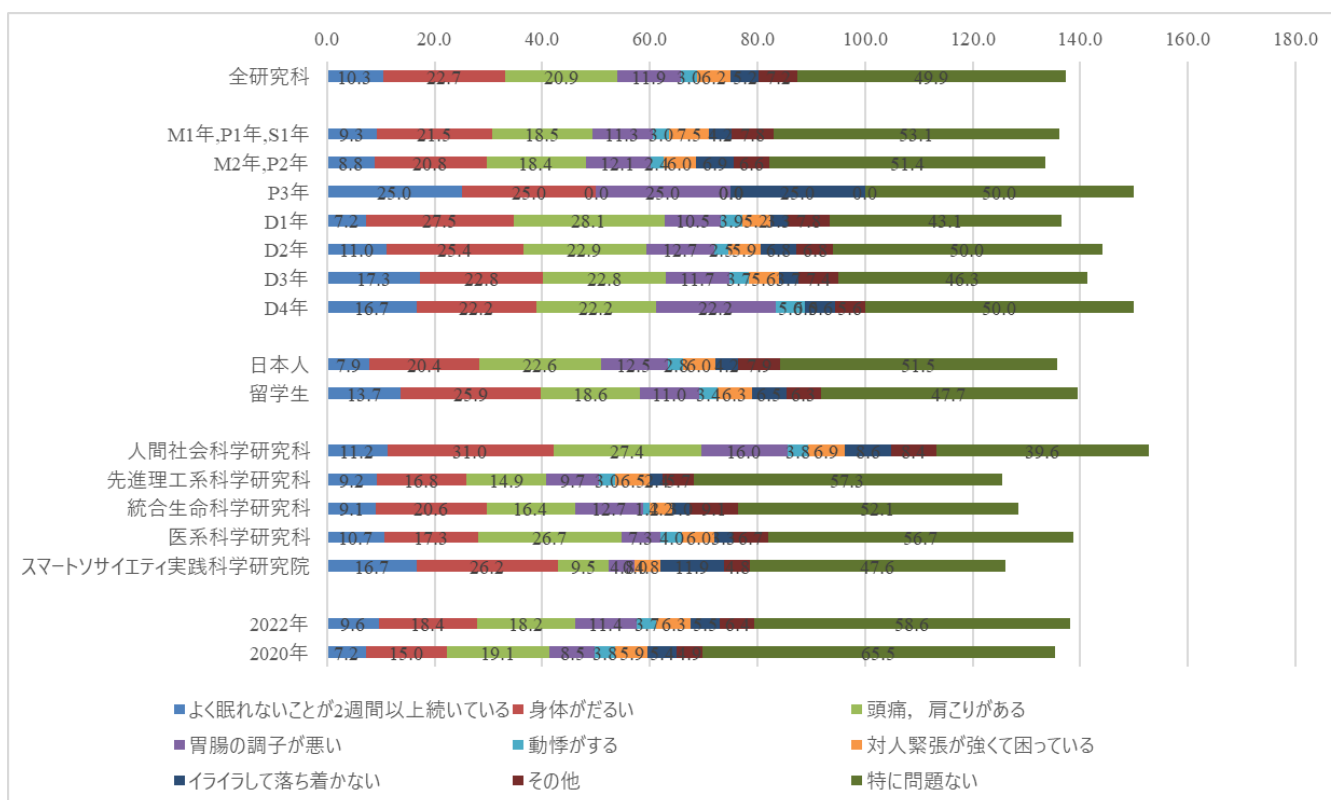
設問 39 学生生活の中で悩みがありますか。(複数回答可)

P3 年生に「学生生活の中で悩みがある」と回答した割合が高かったが、人数が少ないため、統計解析をしないと、有意な差があるかどうかは判明しない。多くの学生が学生生活の中で悩んでいるのは、「修学上のこと」、「将来（進路）のこと」、「経済的なこと」であった。



設問 40 現在の健康状態はどうですか。(複数回答可)

2020, 2022 年と比較して、問題ないと回答した学生の割合が顕著に減っている。よく眠れない、体がだるい、頭痛肩こりがする、などの割合が増加しており、その主な原因となっている。高学年ほどよく眠れないと回答している割合が増加している傾向がある。



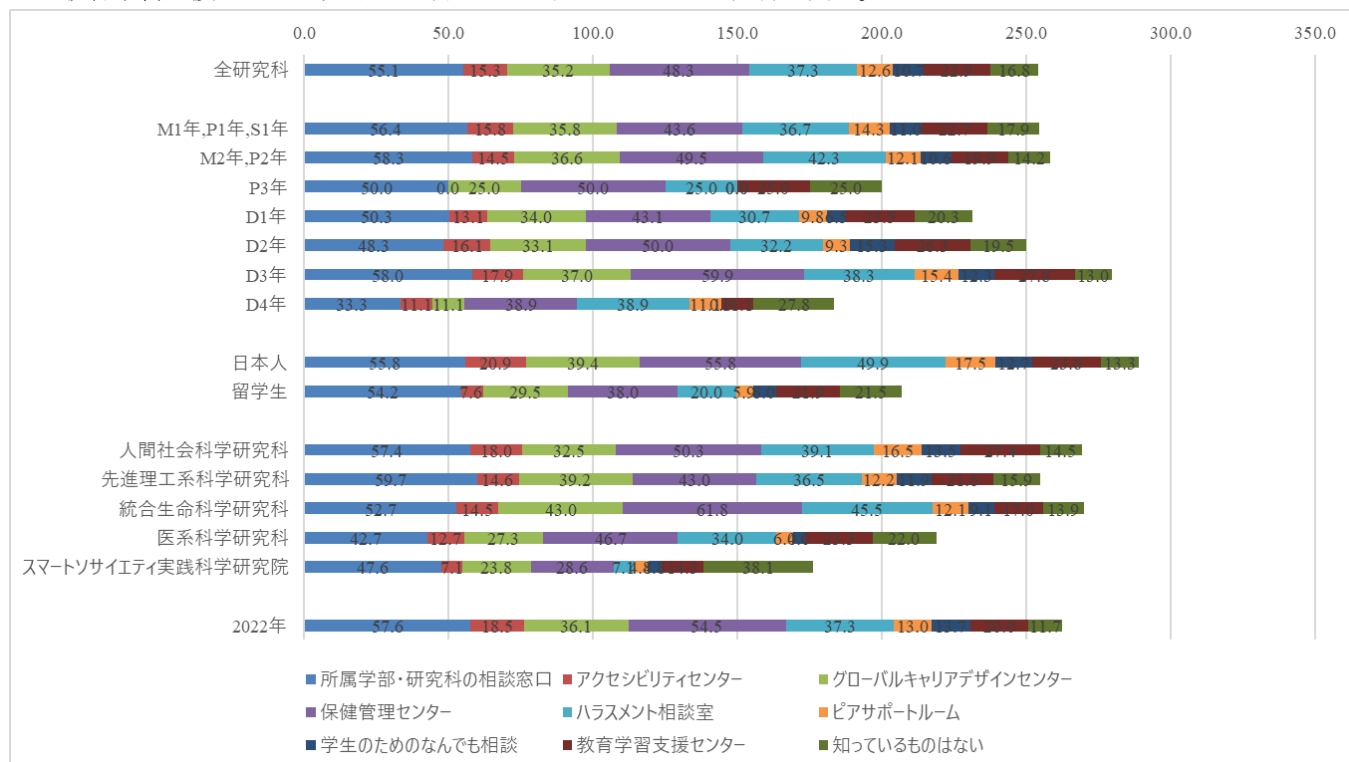
設問 41 悩みを相談できる相手は何人いますか。

悩みを相談できる人が誰もいない（0人）と回答した割合が9.2%と比較的高いように感じられる。また、その傾向は高学年ほど顕著である（P3を除く）。また、日本人よりも留学生の方が悩みを相談できる人数が少ない傾向がある。



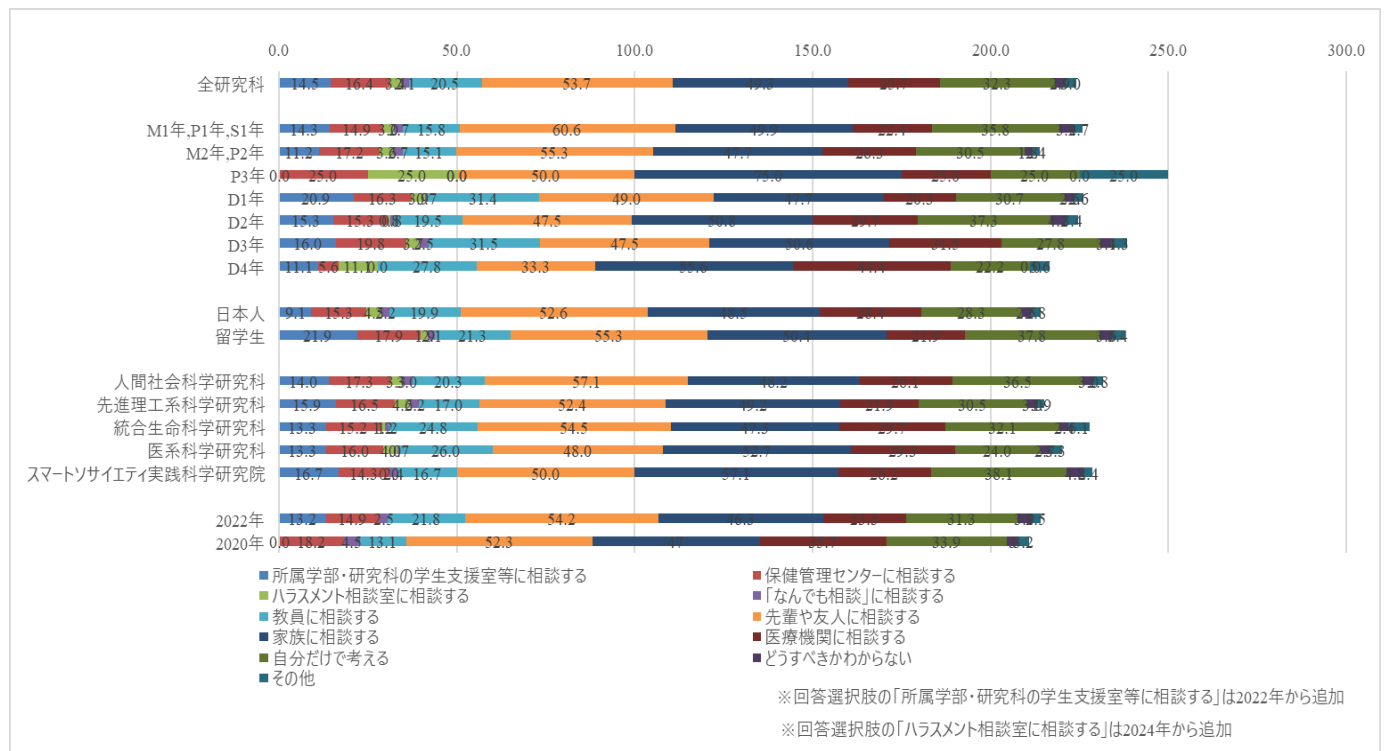
設問 42 本学にある各種相談窓口のうち、知っているものはどれですか。（複数回答可）

所属の相談窓口，グローバルキャリアデザインセンター，保健管理センター，ハラスメント相談室，教育学習支援センター以外は比較的低かった。留学生は，所属の相談窓口，グローバルキャリアデザインセンター及び教育学習支援センター以外は日本人よりも極めて知らない割合が高い。



設問 43 身体面、心理面で何か悩みが生じた場合には、解消に向けてどうしますか。(複数回答可)

ハラスメント相談室、なんでも相談へ相談する割合が極めて低い。家族や友人への相談が最も高く、その次に医療機関への相談や自分だけで解決する割合が高い。



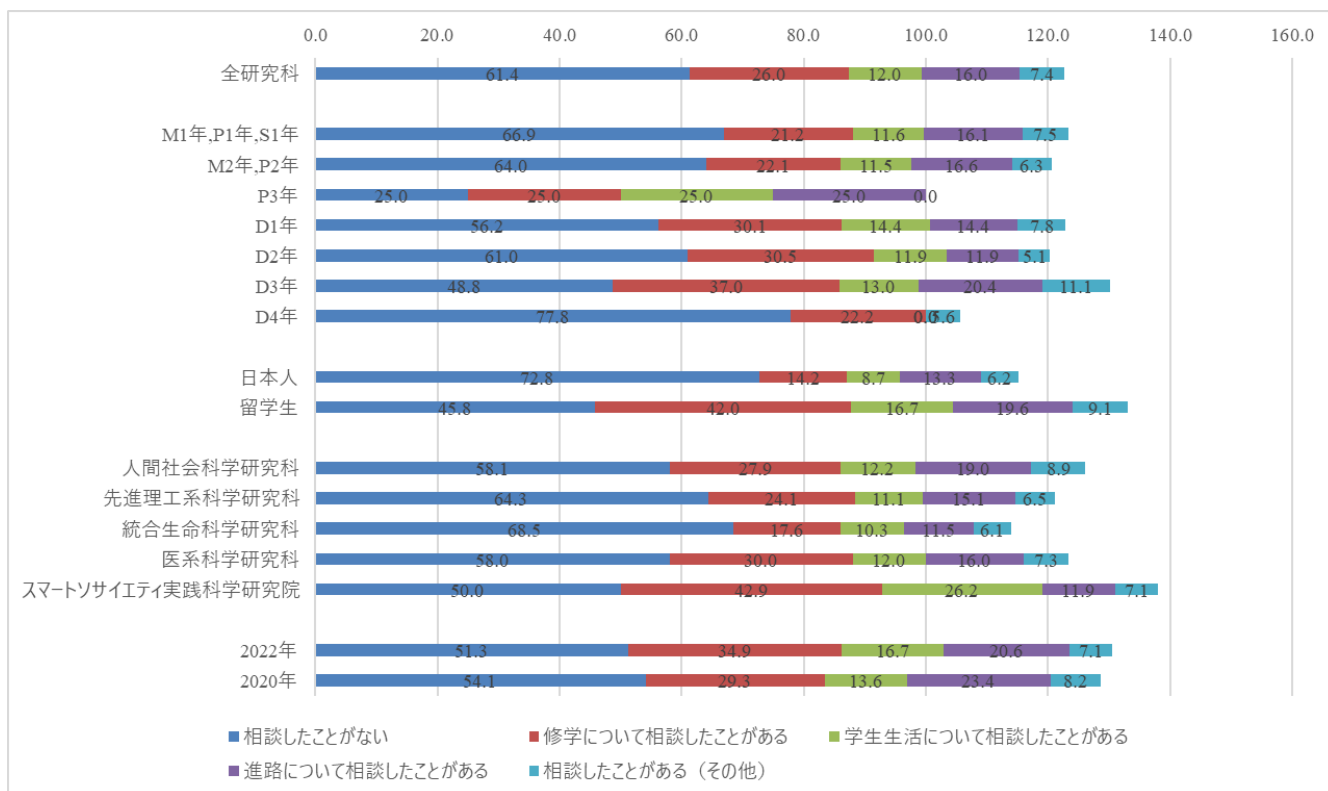
設問 44 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート(支援)体制やサービス内容・メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。

普通・十分と回答した割合は70%以上、十分でないと回答した割合は10%未満であり、概ね満足していると思われる。2020年時から満足度は回復しているようである。



設問 45 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がいます。チューター面談時以外で、チューターに相談したことがありますか。相談したことがある場合は、相談内容を選択してください。(複数回答可)

チューターへ相談したことがないと回答した割合は60%以上で、日本人に限れば70%以上である。以前の調査よりも増えている。相談内容も修学、進路であり、限定的であるといえる。



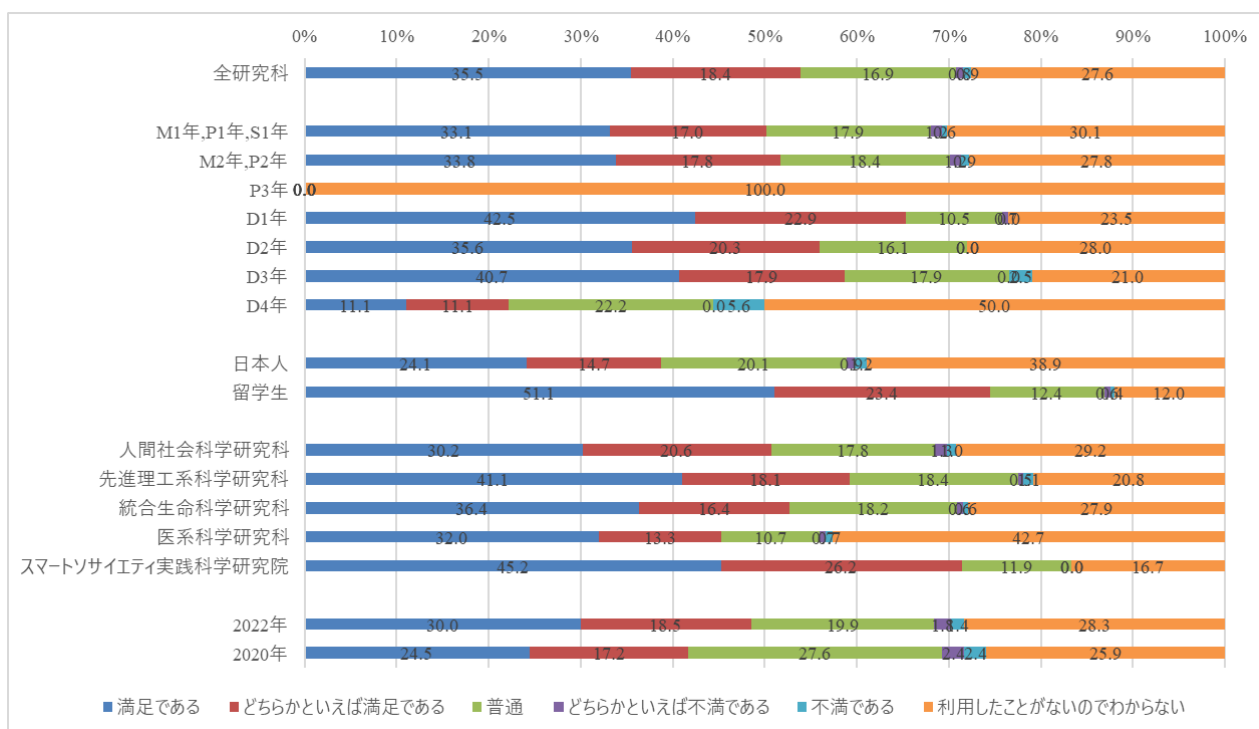
設問 46 所属学部・研究科の学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。

満足、概ね満足、普通と回答した割合が80%を超えており、問題ないと考えられる。



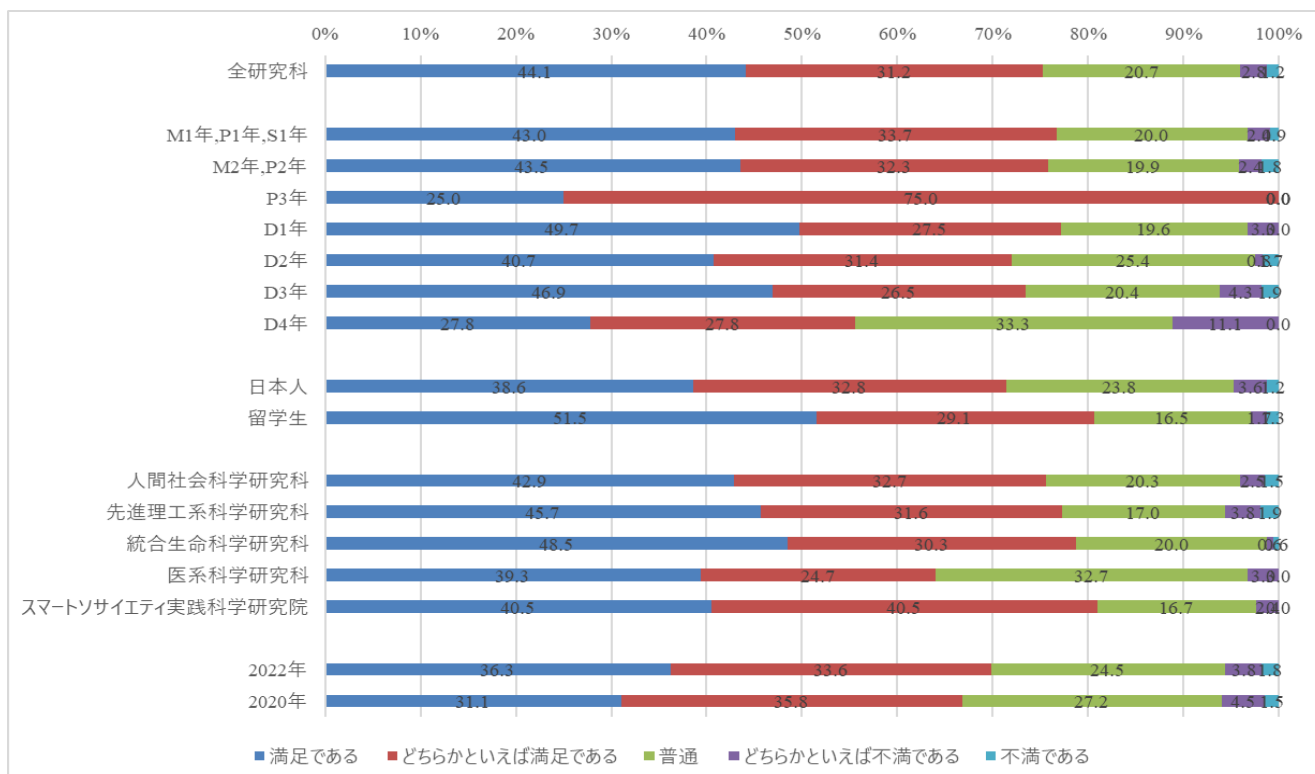
設問 47 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。

どちらかと言えば不満，不満と回答した割合は10%以下であり，満足度は高いといえる。



設問 48 本学での教育・学習，学生生活などに関して，全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど，満足していますか。

どちらかと言えば不満，不満と回答した割合は10%以下であり，満足度は高いといえる。一方，高学年ほど，どちらかと言えば不満，不満と回答した割合は顕著に高くなっている。



設問 49 本学以外での生活に関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど、満足していますか。

どちらかと言えば不満、不満と回答した割合は10%以下であり、満足度は高いといえる。高学年ほど不満と回答した割合がやや高い。

